単元デザインのポイント

例　第３学年　国語科（単元名：れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう）
（教材名：「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」）

分	４５分の場合の指導計画（４５分×１５時間扱い）		４０分の場合の指導計画（４０分×１４時間扱い）	分
45	①「すがたをかえる大豆」を読み、学習計画を立てる。	精選・統合	①単元全体を概観し、「すがたをかえる大豆」を読んで、単元の学習計画を立てる。 ポイント１・２・３	60
45	②「はじめ」「中」「おわり」の役割や内容を捉える。		②「はじめ」「中」「おわり」の役割や内容を捉える。	40
45	③語句を調べ、「はじめ」の書かれ方について考える。		③④「中」を読み取り説明のしかたの工夫を見付け、「はじめ」の書かれ方について考える。	80
45	④「中」を読み取り、説明のしかたの工夫を見付ける。			
90	⑤⑥説明のしかたの工夫についてまとめ、他の食べ物について書かれた本を読み、感想を伝え合う。		⑤説明の工夫についてまとめる。	40
			⑥他の食べ物について書かれた本を読み、感想を伝え合う。	40
45	⑦「すがたをかえる大豆」の学習を振り返り、次時に向けて「科学読み物での調べ方」を確かめる。			
45	⑧「食べ物のひみつを教えます」を読み、作例で説明の工夫を確認し、今後の学習計画を立てる。		⑦「食べ物のひみつを教えます」を読み、学習計画を立て、調べたい材料を選ぶ。	40
90	⑨⑩調べたい材料を選び、調べ、内容を整理する。		⑧⑨「科学読み物での調べ方」を確かめ、資料を読んで調べ、内容を整理する。	80
45	⑪文章の組み立てや例の書き方を考える。		⑩文章の組み立てや例の書き方を考える。	40
90	⑫⑬表現を工夫して文章を書く。（下書き・推敲・清書）		⑪⑫表現を工夫して文章を書く。（下書き・推敲）	80
			⑬表現を工夫して文章を書く。（清書）	40
45	⑭文章を読み合い、感想やよいところを伝え合う。		⑭文章を読み合い感想やよいところを伝え合い、単元の学習を振り返る。 ポイント４	60
45	⑮単元の学習を振り返る。	意図的な振り返り		
計 675	※９０分・８０分の授業は２時間で一続きの内容であるが、１時間ずつに分けても扱える内容である。			計 600

ポイント１　既習学習の活用
・第３学年「言葉で遊ぼう」で初めて学習した**「段落」の意味や働き**を本教材の読解に活用する。「言葉で遊ぼう」を拡大して掲示し、「はじめ・中・おわり」の組み立てや、それぞれにどんな内容が書かれるかを確認する。既習の内容である「段落」の意味や働きの確認を簡潔に行うことで、児童の活動時間を十分に確保する。他単元との関連

ポイント２　学習方式の定式化
・年間を通して「資料となる文を読む→資料に対する自分の考えをもち文章にまとめる→交流活動を行う」という流れを基本として単元計画を立てる。また、説明文や物語文を読んだら初発の感想を書く、形式段落に番号を振り「はじめ」「中」「おわり」に分けるなどを国語科の基本的な学習方法として繰り返し行う。これらにより、児童が学習の見通しをもちやすくなる。

ポイント３　精選・統合
・４０分授業と６０分授業を効果的に組み合わせた柔軟な授業展開を行う。具体的には、４５分授業では①「すがたをかえる大豆」の学習計画を立てる ⑧「食べ物のひみつを教えます」の学習計画を立てるで２時間取っているところを、４０分授業では①「すがたをかえる大豆」の学習計画を立てる を６０分扱いとし、単元全体（１５時間）の大まかな見通しをもたせるようにした。

ポイント４　意図的な振り返り
・学習の振り返りは毎時間行うのではなく、単元計画の中で必要なところに意図的に組み入れ、主となる学習活動時間を十分に確保する。具体的には、４５分授業⑦の前半に扱う振り返りを省き、４０分授業⑭で単元全体を通した学習の振り返りを行う。これにより生まれた時間を４０分授業⑬の清書の時間とし、書く活動を十分に行えるようにした。

４０分の授業デザインのポイント

（全１４時間中の２時間目）
■目標　教材文を「はじめ」「中」「おわり」の構成で捉え、大まかな内容と役割を捉えることができる。
■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入10分	○重要語句を確認しながら、「すがたをかえる大豆」の全文を読む。	◆「いる」「ひく」「むす」など大豆の加工に関する言葉の意味を押さえる。
	○大豆からできた食品が、どの段階で出てきたかを読み取り、食品を縮小した写真の順序を考えてワークシートに貼る。	◆写真を手がかりに、大豆からできた食品が出てきた順番を見付けさせる。（ワークシート）
展開20分	○本時のめあてを確かめる。 文章の組み立てについて考えよう。	
	○全文を「はじめ」「中」「おわり」に分けるとすると、どのように分ければよいか考える。	◆「段落」の意味や働きについて、「言葉で遊ぼう」の拡大掲示で簡潔に確認する。 ◆「この説明文の「中」は、何段落から何段落までに書かれているでしょう。」（「中」に注目させて考えさせる。）
	○自分の考えをグループで伝え合う。	◆３人組でワークシートの表を見せ合いながら、考えを伝え合わせる。話し合いのポイントを提示する。
まとめ10分	○全体交流を行い、確かめる。 ・「はじめ」には「毎日の食事で大豆がよく食べられていることが書かれています。」 ・「はじめ」には、大豆がどんなものかということが説明されています。 ・「中」には大豆をおいしく食べる工夫の例が書かれています。 ・「おわり」には、大豆がいろいろな食品になって食べられてきた理由が書いてあります。 ・「おわり」の「おどろかされます」は筆者の感想です。 （「中」の詳しい内容は次の時間に読み取る。）	◆実物投影機で、児童のワークシートを全体で共有しながら確認していく。 ◆ワークシートの表の「はじめ」「中」「おわり」の区切りに赤線を引かせる。 ◆「はじめ」には大豆の説明が、「中」には工夫の例が、「おわり」には多くの食べ方が考えられた理由がまとめとして書かれていることを押さえる。 ※「はじめ」「中」「おわり」の役割を捉え、各段落をまとまりに分けている。（発言・記述）

本時は、ワークシートを工夫し、児童が興味をもって学習に取り組み、「はじめ」「中」「終わり」について視覚的にも理解できるようにした。これらにより児童が４０分で無理なくめあてを達成できるようになっている。

●ワークシートの工夫
・本時は、段落の表（段落番号、「はじめ」「中」「おわり」、段落の中心となることなどを書き込めるもの）をワークシートにしたものと、食材を縮小した写真を児童に配布する。それらを手掛かりにすることで、視覚的にも段落の組み立てが理解できるようにする。

●掲示資料の工夫
・学習計画や以前に学習した内容を掲示し、既習の学習内容や方法を踏まえた学習ができるようにする。

●個人での読みと交流活動の充実
・読むときのポイントを提示し、めあてに沿った読み取りや話し合いができるようにする。

●ICT 機器を用いたまとめの効率化
・児童のワークシートを実物投影機で提示し、全体で共有しながら効率的にまとめを行う。

単元デザインのポイント

例 **第６学年　国語科**

（単元名：表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう）

（教材名：「鳥獣戯画」を読む　日本文化を発信しよう）

分	４５分の場合の指導計画（４５分×１１時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×１１時間扱い）	分
45	①課題を設定し学習の見通しをもつ。	①課題を設定し学習の見通しをもつ。	40
45	②筆者の『鳥獣戯画』の読み取り方を理解する。	②筆者の『鳥獣戯画』の読み取り方を理解する。	40
45	③筆者の「絵・絵巻物についての評価」を読み取る。	③筆者の「絵・絵巻物についての評価」を読み取る。	40
45	④筆者の、読者に伝えるための表現の工夫に気付く。	④筆者の、読者に伝えるための表現の工夫に気付く。	40
45	⑤著作権について理解を深める。	⑤著作権について理解を深める。	40
45	⑥日本文化についての本を選び、内容を読み取る。	⑥日本文化についての本を選び、内容を読み取る。	40
45	⑦グループでの パンフレットづくりの構想をたてる。	⑦ペアでの新聞づくりの構想をたてる。 資料を集め、適切な内容を選ぶ。	60
45	⑧資料を集め適切な内容を選び、見出しを考える。	⑧新聞の割り付けを決め、役割分担をする。 記事の内容に合う見出しを考え、下書きをする。	60
45	⑨パンフレットの構成を考える。 役割分担をし、下書きをする。	⑨新聞を仕上げる。	40
45	⑩パンフレットを仕上げる。	⑩掲示した新聞を見合い、学習の振り返りをする。	40
45	⑪冊子の交流や学習の振り返りをする。		計
計			440
495			

ポイント１（⑦→⑦）　学習集団の組み換え

ポイント１（③→③）

ポイント２・４（⑦→⑦）

ポイント３（⑨→⑨）

交流の仕方（成果物）（⑪→⑩）

ポイント１　学習活動の活性化（付箋、実物投影機の活用）

・筆者の考えや表現の工夫などを読み取る学習では、付箋を使わせることで小さな気付きも大切に取り上げやすくする。また、児童の読み取りを交流させる場面では、積極的に実物投影機を使うことで、短時間で全員が明確に考えを把握し共有できるようにする。

ポイント２　一人ひとりを生かす学習集団の編成

・作品作りをグループではなくペアにすることで、短時間で話合いを行う。

ポイント３　効果的な学習展開（割り付けカードの活用）

・新聞の構成を考えるときには、割り付けカードを活用させることで、自由に試行錯誤しながらよりよい新聞へと練り上げることができるようにする。

ポイント４　主要な言語活動の変更（パンフレット➡新聞）

・作品をパンフレットではなく新聞にして掲示することで、一目で全体を見ることができるため、互いにその良さや工夫などを交流しやすくなり、時間を有効に使うことができる。パンフレットについては、第４学年時の国語の学習で扱っている。また、「思い出を言葉に」の学習でまとめる際の一つの方法として例示することもできる。

４０分の授業デザインのポイント

（全１０時間中の４時間目）

■目標　筆者が、自分の見方を読者に伝えるために、どのような工夫をしているか考える。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入５分	○本時の課題を確認する。	◆本時は、能率的に活動を進めるために、見つけた工夫を付箋に書いて台紙に貼ることを伝える。
	筆者が、自分の見方を読者に伝えるために、どのような工夫をしているか考えよう。	
展開３０分	○筆者の工夫をさがす。 T:「今日は本文から読者を惹きつけるための筆者の工夫をさがして付箋に見付けた表現を書き出しましょう。」 C:「『はっけよい、のこった。』という印象的な作品の解説文で書き出しているところに驚きました。」 ○さがした工夫をペアで紹介し合う。 C:「『…野ウサギ。…トノサマガエル。』とリズムよく書かれていることに○○さんは気が付いていてすごいな。」 ○全体で筆者の工夫について発表し合う。	◆事前に工夫例を示し、探しやすくする。 ◆何度も読み返しながら、筆者の工夫をさがすように促す。その際に順序が前後した場合は付箋を移動するように伝えておく。 ※筆者の工夫を探して付箋に書いている。（付箋の貼ってある台紙） ◆ペアで交流したことで新たに気付いた重要だと思う工夫は付箋の色を変えて追加させる。 ◆いくつかのペアの工夫を紹介することで自分の考えと比較させる。
まとめ５分	○筆者の工夫を調べて考えたことをまとめる。	※工夫することの良さについてノートにまとめようとしている。（ノート） ◆次時の予告をする。
	筆者が書き出しの工夫、体言止め・短文によるリズム・語りかけるような書き方など様々な工夫をして、読者に「鳥獣戯画」の価値を伝えようとしている。	

導入は、学習計画に基づいて短い時間で行う。そのため、前時のまとめで次時の学習内容を予告しておく。
教材・教具を工夫することで、対話的な学びや深い学びを重視でき、時間も短縮できる。

●付箋の活用・モデルの提示
・工夫例を示すことで、学習活動を円滑に進められるようにする。また、付箋を使うと、前後の順序を差し替えたり、不必要なものを省いたりすることもしやすくなり、時間を短縮できる。

●対話的な学びの視点
・個人→ペア→全体と多様な学習活動を取り入れることで、筆者の多様な工夫に気付き、自分の考えを広め深めることができる。

●実物投影機の活用
・全員で意見を共有するために、付箋の貼ってある台紙を実物投影機を使って紹介する。

●学習の過程や成果を振り返る時間の充実
・１時間の学習において、課題に対する自分の考えをまとめることで、学習の成果を実感できる。

単元デザインのポイント

例 **第３学年　社会科　（単元名：目黒区のうつりかわり）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×１０時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×１０時間扱い）	分
45	① 学習問題作りと個人の予想 ― 統合 →	① 学習問題作りと学習計画の設定 ポイント１	60
45	② 個人の予想をもとに学級の学習計画の設定	学習問題 目黒区の町の様子や人々のくらしは、どのように変わっていったのだろうか。	
45	③ 区の行政区分の移り変わりの理解	② 人口の移り変わりの理解（年表に記述）	40
45	④ 土地利用の移り変わりの理解 ポイント３	③ 行政区分の移り変わりの理解（年表に記述）	40
45	⑤ 人口の移り変わりの理解	④ 土地利用の移り変わりの理解（年表に記述）	40
45	⑥ 区の交通網の移り変わりの理解	⑤ 交通網の移り変わりの理解（年表に記述）	40
45	⑦ 区の公共施設の移り変わりの理解	⑥ 公共施設の移り変わりの理解（年表に記述）	40
45	⑧ 昔の道具の移り変わりの理解 ― 増加 →	⑦ 昔の暮らしについて実物資料等を用いて理解を深める。	80
45	⑨ 年表の作成など調べたことの整理	（めぐろ歴史資料館見学）	
45	⑩ 学習問題に対するまとめ ポイント２	総合的な学習の時間　単元名「地域の一員として」の調査活動・体験活動。 昔の暮らしについて地域の方から聞き取り調査、昔の道具を地域の方と一緒に体験する。	
計	ポイント４ 統合	⑧ 学習問題に対するまとめ（年表完成）	60
450		学習問題のまとめ 目黒区は、人口の増加とともに交通機関が発達したり、土地の使われ方が変わったりして発達した。区民の願いをかなえるため、税金を使って様々な公共施設が建てられた。	計 400

統合：２つ以上の指導事項を１つにする　増加：重点化、充実を図るために時数を増加

ポイント１　習得させたい知識を学習問題づくりの資料として提示
・学習問題作り、学習問題に対する予想、学習計画の設定を１単位時間内に行う。６０分授業とし、一連の活動の時間を確保する。

ポイント２　総合的な学習の時間による地域学習と関連して体験的な学習の時間の確保
・総合的な学習の時間　単元名「地域の一員として」と関連させる。昔の暮らしや昔の道具について、地域の人から聞き取り調査や体験的な学習を行う時間を総合的な学習の時間で確保し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した単元デザインとなっている。

ポイント３　学習問題の解決に向けて習得した知識を毎時間年表に整理
・年表の整理は、行政区分、土地利用、人口推移、交通、公共施設のそれぞれの学習時間内に行う。年表を書き足していくことで、習得した複数の知識を関連付けられると共に、まとめの時間の作業がコンパクトになり、習得した知識を基に、学習問題の解決を図る思考に時間を集中させる単元デザインとなっている。

ポイント４　既習事項の活用
・教師が新たに指導する内容を縮減するために、既習単元の「目黒区のようす」の学習で獲得した知識・技能を活用し、社会的な見方・考え方を働かせて主体的に学習する単元デザインとなっている。

４０分の授業デザインのポイント

（全８時間中の６時間目）

■目標　目黒区の公共施設の誕生について調べる活動を通して、人口の増加とともに、住民の必要とする様々な公共施設が整備されていったことを理解する。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 □資料　※評価
つかむ５分	○本時の課題を確認する。 T：「今日は何を学習するのかな。」 C：「区内の公共施設。」	◆学習計画を基に、スムーズに導入を行う。 □区内の公共施設の写真
	目黒区の公共施設は、いつごろ、どんな目的でできたのだろうか。	
	○課題に対して予想をする。 C:「みんな戦後にできたと思う。」 C:「最近できたものもあるのかな。」 C:「欲しいという声が高まったんだ。」	◆「いつ」と「どんな目的で」の２つの視点で予想させるようにする。
調べる①15分	○自校の歴史について調べる。 T：「小学校も公共施設ですね。私たちの学校は、いつ頃できたのでしょう。」 C:「昭和２７年に○○小ができた。」 C:「平成２年に体育館とプールと渡り廊下ができた。」	□周年記念誌 ◆地域の人口（児童数の）増加に伴って、校舎が増設されたり、設備が充実したりしたことに注目する。
	○八雲中央図書館・区民ホール・めぐろ歴史資料館・公園等について調べる。 T:「他にどんな公共施設が、いつごろできたのか調べてみよう。」 C:「様々な公共施設ができている。」 C:「図書館と同じ建物にパーシモンホールがある。」 C:「目黒区に住む人が使いやすいようになっている。」 C:「人口が増えて、公共施設も増えている。」	□副読本 □目黒区サイト（歴史年表）・歴史資料館刊行物などの情報をまとめたもの 例. 中央図書館　平成１４年１０月開館 約１２０万冊蔵書（平成２９年） 蔵書数は年々増加している。 □目黒区人口の推移 ◆施設は、住民（利用者）が使いやすいように改修、増築、新設等が行われていることに気付かせる。 ◆人口の推移と関連付けて資料を読む。
	目黒区は、人口の増加とともに、様々な公共施設ができていった。	
調べる②10分	○お金の出どころ（区の歳出内訳）について調べる。 T:これらの施設を造るのに、誰がお金を出したんだろう。」 C:「目黒区に住む人がお金を出すことで、公共施設が整えられている。」 T:「なぜ公共施設が、たくさんできていったのだろう。」 C：「たくさんの人が利用したい（必要）と考えたから。」 C:「人口が増えて、税金で区に入るお金も増えたから。」	□目黒区の投資的経費等 目黒区サイト「目黒区の概況の把握」 ◆目的から外れないように、公共施設の建設に税金が利用されているという最低限の情報だけにとどめる。
	※人口の増加とともに、住民の必要とする様々な公共施設が整備されていったことを理解している。 （発言・ノート　知・技）	
まとめる10分	○学習のまとめをする。	
	目黒区では、税金を使って、住む人が利用しやすいように公共施設を整えていった。人口の増加とともに、生活をよりよくしたいという人々の思いが高まり、必要なものを、みんなで作っていった。	

本時では、複数の公共施設の用途や建てられた時期を調べる。扱う情報が多いため、必要に応じて、教師が情報を精選し、１つにまとめて、一覧できる資料を作成する。（施設名・写真・開設・開館年・施設情報等）このように、児童の実態に応じて、本時の目標を児童が達成するために必要な資料を調整し、作成することが４０分授業をデザインする際に重要となる。

●予想の記述のさせ方を示し、記述時間を縮減
・いつ→○○ごろ
どんな目的で→○○のため
などと文章化させず、視点に合う言葉をメモさせる程度にとどめて、短い時間で予想できるようにする。生み出された時間を調べる活動や話合いに使う。

●ノートのとり方の定着
・調べて分かったことは、ノートに箇条書きにさせる。
・めあて、調べたこと、調べたことから、めあての解決に向けて自分が考えたこと、友達の考え、まとめ、ふりかえりなど１時間の学習を構造的にノートに表現させる指導を継続し、見通しをもち、４０分で問題解決が図られるようにする。

●振り返りを含めたまとめ
・まとめた後に、振り返りを表現させるのではなく、めあてに対して解決を図ったまとめに加え、まとめに対する自分の判断や、学習方法に対するふりかえりを合わせて書くことができるように指導する。

単元デザインのポイント

例　第６学年　社会科　（単元名：全国統一への動き）

分	４５分の場合の指導計画（４５分×６時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×５時間扱い）	分
45	①　教科書や資料集から戦国の世の中になった経緯や当時の様子を調べ、学習問題をつくり、学習計画を立てる。	①　長篠の戦いの様子から、戦国の世の中から全国統一されたことについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。	40
45	②　長篠の戦いの絵図を読み取り、三人の武将の人物年表から、三人の武将によって、戦国の世の中がこの後どのように統一されていくのかを話し合う。		
45	③　織田信長が行った政治やキリスト教の伝来を調べ、全国統一に向けて信長が果たした役割を捉える。	②　織田信長が行った政治やキリスト教の伝来を調べ、全国統一に向けて信長が果たした役割を捉える。	40
45	④　豊臣秀吉が行った政治を調べ、全国統一に向けて秀吉が果たした役割を捉える。	③　豊臣秀吉が行った政治を調べ、全国統一に向けて秀吉が果たした役割を捉える。	40
45	⑤　徳川家康が行った政治を調べ、全国統一に向けて家康が果たした役割を捉える。また、調べたことをまとめ、三人の武将によって戦国の世の中が統一されたことを捉え、三人の武将を比較し、果たした役割を考え、表現する。	④　徳川家康が行った政治を調べ、全国統一に向けて家康が果たした役割を捉える。また、調べたことをまとめ、三人の武将によって戦国の世の中が統一されたことを捉え、三人の武将を比較し、果たした役割を考え、表現する。	40
45	⑥　学習習問題に対して自分の考えをまとめ、友達と考えを交流し、考えを深める。	⑤　学習習問題に対して自分の考えをまとめ、友達と考えを交流し、考えを深める。	40
計			計
270			200

統合：２つ以上の指導を合わせて１つにする

統合

ポイント１・３

ポイント２

ポイント１　効果的な資料の精選

・効果的なデジタル教科書の資料や動画資料を精選し、提示活用することで、社会的事象について児童に注目させたいポイントが時間内に見いだされるようにする。

ポイント２　まとめに自分の変容を表現させる指導

・まとめをノートに書く際に、「はじめ私の予想では～と思っていたけど、調べて話し合ったら○○でした。」というように１時間の学習をとおして変容した考えを書くことの指導を徹底する。授業冒頭のめあてに対する予想を書かせず時間を縮減する。

ポイント３　学習計画の効率的な設定

・学習問題づくりの際の資料の読み取りから、気付いたことや疑問を教師が人物や軍事、経済などの視点別に整理することで、児童が学習計画を効率的に設定できるようにする。

４０分の授業デザインのポイント

（全５時間中の１時間目）

■目標　長篠の戦いの様子に注目し、戦国の世の中から全国が統一されたことについて学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。

■展開

	○主な学習活動 C：予想される児童の反応	◆指導上の留意点 □資料　※評価
つかむ５分	○本時の課題を確認する。	□戦国武将勢力の変遷（1534 年～1590 年） □デジタル教科書
	戦国の世の中は、どのような様子だったのだろうか。	
	○資料を読み取り、なぜ、織田信長が勢いを増したのかを予想をする。 C:「始めは勢力が小さかったのに急に勢いが出てきた。」 C:「なぜ、急に勢力が広がったのかな。」	◆戦国武将勢力図資料では、武将の勢力変遷だけでなく、その時代の出来事にも注目させる。
調べる①15分	○長篠の戦いの絵図を読み取り、気付いたことをノートにまとめる。 C:「左側では、木の柵があり、鉄砲を構えている人がいる。」 C:「右側は馬に乗っている人が多い。」 C:「右と左で戦い方が違うね。ということは・・・。」 T:「この戦い左側が織田軍（徳川軍）右側が武田軍です。どちらが勝利をおさめたのだろう。」 C:「織田軍だ。鉄砲の方が戦いは有利。」 C:「私も織田軍だと思う。武田軍は近づけなかったのではないか。」 T:「鉄砲が戦いに有利なら、武田軍も鉄砲をたくさん用意すればよかったのでは。」 ○話合いから調べたいことを整理する。 学習計画から学習問題づくりへ	◆資料から「見て分かること」→「そこから考えられること」という視点で分けて整理する。まとめる。 ※長篠の戦いの様子から、問いを見いだし、学習問題として表現している。（発言、ノート）
	学習問題：戦国の世の中は、誰がどのようにして統一していったのだろうか。	
調べる②10分	○学習問題に対する自分の予想を考える。 ○小グループで学習問題の予想を発表する。	※学習問題について予想や学習計画を立て主体的に追究しようとしている。（発言、行動観察、ノート）
まとめる10分	○学習のまとめをする。 （まとめ例）　はじめは勢力図から織田信長が勢力を伸ばしていったのに驚いた。長篠の戦いで織田信長が大量の鉄砲をなぜ用意できたかというと、おそらくお金はたくさんもっていたからだと思う。次回の学習では、織田信長が勢いを増した理由やなぜお金をもっていたのか学んでいきたい。	

動画視聴やデジタル教科書の活用により、限られた時間で教師がねらった問いが児童から生み出されるようにする。このことで問いや予想について考える時間、資料について話し合う時間を確保できるようにする。「織田軍だけでなく、武田軍も大量の鉄砲を用意すればよかったのでは。」という発問を用意することで、織田信長がなぜ、大量の鉄砲を用意できたのかという問いを児童がもち、解決に向けて次時以降の学習意欲につなげていくことをねらっている。

●効果的な資料の精選

・効果的なデジタル教科書の資料や動画資料を精選し、提示活用することで、社会的事象について児童に注目させたいポイントが時間内に見いだされるようにする。

●学習計画の効率的な設定

・学習問題づくりの際の資料の読み取りから、気付いたことや疑問を教師が人物や軍事、経済などの視点別に整理することで、児童が学習計画を効率的に設定できるようにする。

●まとめに自分の変容を表現させる指導

・まとめをノートに書く際に、「はじめ私の予想では～と思っていたけど、調べて話し合ったら○○でした。」というように１時間の学習をとおして変容した考えを書くことの指導を徹底する。授業冒頭のめあてに対する予想を書かせず時間を縮減する。

単元デザインのポイント

例 **第３学年　算数科　（単元名：同じ数ずつ分けるときの計算を考えよう）**

ポイント１

分	４５分の場合の指導計画（４５分×９時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×９時間扱い）	分
45	①②除法に関する用語及び記号の理解	①②除法に関する用語及び記号の理解	80
45	等分除の意味の理解	等分除の意味の理解 ポイント２	
45	③ 等分除の場面の数量関係の立式 答えの見付け方の説明 ポイント３	③ 等分除の場面の数量関係の立式 答えの見付け方の説明	40
45	④ 包含除の場面も除法の式に表せられることの理解	④ 等分除と包含除を「わり算」として統合的にとらえ、包含除の場面も除法の式に表せられることの理解	40
45	⑤ 包含除の意味の理解		
45	⑥ 包含除の場面の数量関係の立式 答えの見付け方の説明	⑤ 等分除と包含除を「わり算」として統合的にとらえた、包含除の場面の数量関係の立式 答えの見付け方の説明	40
45	⑦ 等分除と包含除を「わり算」として統合的に捉え、除ホウケイ酸の答えを求める。	⑥ 包含除についての理解を深め、計算問題に取り組む。	40
45	⑧ 被除数が０の場合及び被除数と除数が同じ数の場合の除法の理解	⑦ 除法の式から、等分除・包含除それぞれの問題を作る。 ポイント４	40
45	⑨ 学習問題に対するまとめ	⑧ 被除数が０の場合及び被除数と除数が同じ数の場合の除法の理解	40
		⑨ 学習問題に対するまとめ	40
計 405			計 360

統合：２つ以上のものを合わせて１つにする　分割：学習内容を分ける　焦点化：本単元計画の重点

ポイント１　自己調整学習の力の育成

・毎時間、授業の導入部にＩＣＴや黒板掲示を用いて、課題把握、自力解決、発表及び検討等という１時間の授業の流れを視覚的に示し、見通しを児童にもたせることで自己調整学習の力を育てる。

ポイント２　単元の導入、問題解決をする学習は、６０分の学習を設定

・単元の導入では、児童自身に単元を貫く目標設定をさせるために、６０分から８０分の時間が必要であると考える。

ポイント３　既習事項との関連付け

・第４時から包含除を学習する際、既習である等分除と毎回、意識的に比較したり関連付けたりしながら学習を進める。３時間かけて包含除について学びながら、等分除も包含除も「わり算」として統合していく方が、児童にとって自然と「わり算」を理解でき、また、効率的であると考える。

ポイント４　式から問題を作り、数学的な見方・考え方を養う

・指導書の指導計画第７時の内容で、教科書の練習問題である「式から問題を作る」を焦点化し、本指導計画では一時間扱いとする。式から場面を考え、問題作りをする活動を通して、わり算の理解をより深めるとともに、数学的な見方・考え方を養う。

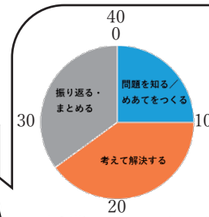
４０分の授業デザインのポイント

（全９時間中の７時間目）

■目標　等分除と包含除の問題作りを通して、わり算の理解を深める。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
問題の理解 10分	○本時の展開について見通しをもつ ○第１時と第４時の問題・図・式・答えの見付け方・答えを振り返る。	◆第１時と第４時の問題・図・式・答えの求め方・答えを黒板に対称に並べ、児童が見比べやすいようにする。
	１０÷５のオリジナル問題を２種類作ろう。	
	○見通しをもつ ・５人で分けるか、５個ずつ分けるかの違いだ。 ・１０を何にしようかな。猫・犬・飴・クッキー・リボン… ・分けるといっても、５人になのか、５袋になのか、５箱になるのか場面を設定しよう。	◆提示している 12÷3=4 の問題を場面と数値を変えれば2種類の問題が作れることに気付かせる。 ◆児童の実態に応じ１、２問全体で例として作ってみてから個人で考えさせる。
問題の解決 20分	○10÷5 の問題を２種類作る。 ・色紙が１０枚あります。５人で同じ数ずつ分けると、１人分は何枚になりますか。 ・色紙が１０枚あります。１人に５枚ずつ分けると何人に配ることができますか。	◆ノートを見開きで使い、（または、画用紙を配り半分に折り）左右にそれぞれ１つ分、いくつ分の問題を書かせる。 ◆黒板に並べている 12÷3=4 の場合のように、問題・図・式・答えの見付け方・答えを左右の位置をあわせてかくことを理解させる。 ※２種類のオリジナル問題を作ることができる。問題を絵（図）に正しく書くことができる。（ノート　思・判・表）
解決のふりかえり・まとめ 10分	○学習感想を書く。 ・同じ式でも２種類の違う問題が作れることが分かった。 ・いくつ分と一つ分など、異なる問題でも、問題文を式に表せば九九を使って答えを出すことができる。ただし、答えの単位に気を付けなければいけないと思った。	◆等分除と包含除は図やかけ算に表した時の□の位置は違うが、「わり算」として一旦式に表してしまえばわる数の段の九九で答えを求めることができると統合的に捉えられるよう振り返る。 ※等分除と包含除の同異について感想を書いている。（ノート　思・判・表）
	・１つのわり算の式から、１つ分を求める場面と、いくつ分を求める場面の問題を作ることができる。 ・１つ分を求める場面もいくつ分を求める場面もどちらもわり算の式で表せる。	



児童に４０分間の学習の見通しをもたせる「学びのガイダンス」を行う。

授業のはじめに図のように示された学習内容を時系列で視覚化し、児童に示す。

●既習事項と関連付け

・第１時と第４時の導入の問題場面を同じにすることにより、本時の導入がよりスムーズになる。また、等分除を「１つ分を求める問題」包含除を「いくつ分を求める問題」など、クラスでネーミングしておく。

●式を読み取ることの重視

・算数科において主体的・対話的な学びをするためには式を通して対話できる力が必要不可欠である。その力を身に付けるためには、式から具体場面を考えたり、式と図を対応する力を身に付けたりする必要がある。

●問題文を絵（図）とすることにより、包含除と等分除の違いを明確化

●学習の過程や成果を振り返る時間の充実

・１時間の学習の中で、今まで漠然と分かった気でいたものが確実な理解へと深まったことを意識させる。
・学習感想を書かせることにより、それを実感させ、真のまとめとする。
・質の高い「新たな宿題」として、家庭学習の時間で「学びの振り返り」を計画的に行う。一人一台の情報端末を効果的に活用することで、これまでの授業デザインを見直す。

単元デザインのポイント

例 **第６学年　算数科　（単元名：拡大図と縮図）**

ポイント１

分	４５分の場合の指導計画（４５分×８時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×９時間扱い）	分
45	① 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、合同な図形の意味を基に、拡大図、縮図の意味・性質の理解	① 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、合同な図形の意味を基に、拡大図、縮図の意味・性質の理解	60
45	② 拡大図、縮図の弁別	② 拡大図、縮図の弁別	40
45	③ 合同な図形のかき方を基に、１辺を基にした拡大図をかく。	③ 合同な三角形のかき方を基にした拡大図や縮図、１つの点を中心とした三角形の拡大図、縮図をかく。	40
45	④ 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、三角形や多角形の１つの点を中心とした拡大図、縮図をかく。	④ １つの点を中心として多角形の２倍の拡大図、２分の１の縮図をかく。	40
45	⑤ 既習の基本図形を拡大図、縮図の観点で分類	⑤ 既習の基本図形を拡大図、縮図の観点で分類する。	40
45	⑥ 縮尺の意味と表し方を知り、実際の長さを求める。	⑥ 縮尺の意味と表し方を知り、実際の長さを求める。	40
45	⑦ 縮図を活用して実際の長さを求める。	⑦ 縮図を活用して実際の長さを求める。	60
45	⑧ 学習問題に対するまとめ	⑧ 学習問題に対するまとめ	40
計 360			計 360

増加　統合　分割　増加

ポイント２　ポイント３　ポイント４　ポイント２

統合：２つ以上のものを合わせて１つにする　分割：学習内容を分ける　増加：学習内容を増やす

ポイント１　自己調整学習の力の育成

・１時間の学習活動の中で、課題把握、自力解決、発表及び検討という見通しを児童にもたせ、自己調整学習の力を育てる。

ポイント２　単元の導入、問題解決をする学習は、６０分の学習を設定

・単元の導入では、児童自身に単元を貫く目標設定をさせるために、６０分から８０分の時間が必要であると考える。また、第７時のように、４０分＋２０分の学習を設定し、児童が屋外に出て実際に計測して作図をし、その縮図を活用して校舎の高さを求める学習を取り入れる。

ポイント３　三角形のかき方を自由に考える場面を設定

・第３時では、第５学年で学習した合同な三角形を基にした作図だけでなく、１つの点を中心とした三角形の作図など、自分の考えをまとめ、説明することができるようにする。

ポイント４　知識・技能を確実に習得

・第４時では、１つの点を中心とした多角形の拡大図・縮図について、丁寧に手順を確認し、確実にかくことができるようにする。

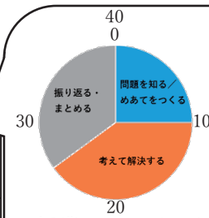
４０分の授業デザインのポイント

（全８時間中の３時間目）

■目標　辺の長さや角の大きさを用いた拡大図・縮図のかき方を考え、説明することができる。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
問題の理解 10分	合同な図形のかき方を基にして、三角形の拡大図のかき方を考えよう。 ○合同な三角形のかき方を振り返る。 ・３つの方法があった。 ・拡大図でも使えそうだ。 ○三角形ＡＢＣを２倍に拡大した三角形ＤＥＦのかき方を考えよう。 ・３つの辺の長さを２倍にすればかけるぞ。 ・辺の長さは２倍でも角度は変わらないね。	◆思いつかない児童には、合同な三角形のかき方を参考にするように助言する。 ◆１つの方法でかくことができたら別の方法も考えさせる。 ※合同な三角形のかき方を基にして、かき方を考えている。（ノート　思・判・表）
問題の解決 20分	○友達と自分の考えを発表し合う。 ○全体で発表し、１辺を基にしたかき方（３通り）、１つの点を基にしたかき方（１通り）を共有する。	◆１つの点を基にしたかき方が児童の考えの中にない場合は、教師から紹介する。 ◆①３辺の長さ②２辺の長さと間の角の大きさ③２つの角の大きさと間の辺の長さ④１つの点を中心にする方法を分類する。
解決の振り返り・まとめ 10分	・合同のときと同じように全部の辺の長さや角の大きさを使わなくてもかくことができる。 ・１つの点を中心にすると辺の長さが何倍になっているかだけを考えればかくことができる。 ○１通りの方法で拡大図をかく。 ・１つの点を中心にするやり方が簡単だね。 ○学習感想を書く。	◆早くできた児童には、３倍の拡大図、２分の１の縮図をかかせる。 ◆Ｐ９７のⅢの四角形の拡大図にも挑戦させる。 ※図形を構成する要素及び図形間の関係に着目して、三角形の拡大図をかくことができている。（ノート　知・技）



児童に４０分間の学習の見通しをもたせる「学びのガイダンス」を行う。

授業のはじめに図のように示された学習内容を時系列で視覚化し、児童に示す。

●自由に試行錯誤する場面の設定

・第５学年で学習した合同な三角形のかき方を基にした拡大図や縮図のかき方、１つの点を中心とした三角形の拡大図、縮図のかき方を限定せずに自由に考えさせ、説明させる。

●既習事項と関連付け

・第５学年で学習した合同な三角形のかき方を振り返るために、巻末資料「ふりかえりコーナー」Ｐ２４７合同な三角形のかき方を参考にしてもよい。

●時間の確保

・既習事項を基に、試行錯誤を重ね、解決法を見いだすための時間、自分の考えをまとめ、説明するための時間を十分に確保する。

●知識の確実な習得

・本時は、拡大図・縮図のかき方を分類し、４つの方法を確実に押さえ、１つの方法だけ全員で試し、確認する。
・残りの方法については、次時（第４時）に十分な時間を確保して、作図をし、技能を確実に習得させる。

●学習の過程や成果を振り返る時間の充実

・質の高い「新たな宿題」として、家庭学習の時間で「学びの振り返り」を計画的に行う。一人一台の情報端末を効果的に活用することで、これまでの授業デザインを見直す。

単元デザインのポイント

例 **第３学年　理科　（単元名：風やゴムで動かそう）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×８時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×８時間扱い）	分
45	①風にはものを動かすことがあることを体感し、問題を見いだす。	①風にはものを動かすことがあることを体感し、問題を見いだす。 ポイント１	40
90	②③送風機を用いて車に風を当て、風の強さを変えた時の動く距離の違いを調べる。	②③送風機を用いて車に風を当て、風の強さを変えた時の動く距離の違いを調べる。	80
45	④風の働きについて考え、風の強さの違いによる物の動き方の違いをまとめる。 統合	④風の働きについてまとめる。ゴムの力を体感し、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合い、ゴムを伸ばす長さに着目し、ゴムの働きについて調べる問題を見いだす。	40
45	⑤ゴムの力を体感し、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合い、ゴムの働きについて調べる問題を見いだす。	⑤⑥ゴムの長さを変えた時の車の動く距離の違いについて調べ、ゴムの働きについてまとめる。 ポイント２	80
90	⑥⑦ゴムの長さを変えた時の車の動く距離の違いについて調べる。	⑦⑧風やゴムの働きについて学んだことをまとめ、風やゴムはたらきを活用したおもちゃ作りを行う。 ポイント３ 増加	80
45	⑧ゴムの働きについて考え、ゴムを伸ばす長さの違いによるもの動き方の違いを調べ、学んだことをまとめる。		
計 360			計 320

ポイント１　問題づくりの工夫

・風とゴムのはたらきについて、比較しながら学習を進めていくことで、児童が問題作りの視点をもてるようにする。第１時では、風のはたらきを感じられるような体験的な活動を取り入れ、問題を見いだせるようにしていく。また４時においても、風のはたらきとゴムのはたらきを比較しながら、ゴムのはたらきを感じられるような体験を取り入れるようにしていく。このような学習を展開することで、時間を短縮するとともに、児童に量的・関係的な見方が身に付くようにしていく。

ポイント２　実験を円滑に行うための工夫

・手順（問題⇒予想⇒実験方法⇒結果）を丁寧に確認しながら、実験を行うようにする。また、グループの実験結果から全体でグラフを作成して共有し、考察するようにしていく。これらの活動を生かし、第５・６時で実験を行うことで、円滑に学習を進め、時間を短縮するようにしていく。またＩＣＴを活用して実験結果を表すことで、教師の負担を軽減させるとともに、児童が全体の実験結果を表現しやすいように工夫する。

ポイント３　「深い学び」の工夫

・風とゴムの働きについてまとめる時間に加え、第７・８時におもちゃ作りを行う。風とゴムの働きを活用したおもちゃ作りをおこなうことで、「深い」学びになるようにしていく。

４０分の授業デザインのポイント

（全８時間中の４時間目）

■**目標**　ゴムの力を体感し、ゴムの働きについて調べる問題を見いだす。

■**展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
事象との出会い 15分	○前時までの学習を想起し、風の働きについて確認する。 ○輪ゴムを伸ばしたりねじったりしてゴムの力を体感し、気付いたことや疑問に思ったことを発表し合う。 T：「風の働きとゴムのはたらきを比べて考えてみよう。」 C：「ゴムは伸ばすと元に戻ろうとするよ。」 C：「ゴムも風と同じように、たくさん伸ばすほど戻ろうとする手応えが大きくなるよ。」	◆風の働きについて前時でまとめたものを提示し、風の働きとゴムの働きを比較して、考えられるようにする。 ◆輪ゴムを伸ばして手応えを感じる時間を十分にとる。 ◆ゴムを伸ばしすぎたり、急に手を離したりしないように安全に留意させる。
問題を見いだす 15分	○ゴムのはたらきを使うと、車はどのような変化をするか考え問題を見いだす。 C：「ゴムをひいたら力が強くなったから、ゴムをたくさん伸ばせば、車は遠くへ動くと思うよ。」 C：「風と同じように、引く距離が大きければたくさん車は動くんじゃないかな。」 ゴムを伸ばす長さを変えると、物を動かすはたらきはどのように変わるのだろうか。	◆なぜそう思ったのか、根拠をもって考えるように支援を行う。 ※ゴムを伸ばす長さや本数を変えたときの車の動きについて、友達と互いに考えを伝え合いながら、問題を見いだすことができる。（発言・ノート　思・判・表現）
実験方法を考える 10分	○ゴムを用いて実際に車を動かす活動を取り入れ、ゴムのはたらきを調べるための実験方法を考える。 T：「ゴムのはたらきを調べるためには、どうしたらいいと思いますか。」 C：「風のはたらきの時は、板を立てたよ。ゴムのときは、フックを使ってゴムをひっかければいいんじゃないかな。」 C：「ゴムが伸ばした長さが分かるように、ものさしで測ろう。」	◆児童の主体的な学びになるように、実験方法を全体で話し合うようにしていく。 ◆実験方法を全体で相談しながら考えることで、児童の主体的な学習につながるようにする。 ◆ゴム伸ばした長さを図ることを確認し、量的・関係的な見方ができるようにする。

本時は、前時までに行った風の働きに関する学習を活用することで、主体的な学びの時間を確保できるデザインとなっている。

●主体的・対話的な学びの視点

・輪ゴムを伸ばして手応えを体感する時間を十分に確保することで、自ら問題を解決しようとする意欲をもてるようにする。また、その際に、手ごたえの違いについて気付いたことを発表させ全体で共有することで、ゴムを引く長さと手応えについて量的・関係的な見方を働かせるようにする。

●風の働きとゴムの働きを比較して考察

・風の働きを調べた学習を想起させることで、風の働きをとゴムの働きを比較しながら問題を見いだすことができる。

単元デザインのポイント

例 **第６学年　理科　（単元名：電気の利用）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×１３時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×１３時間扱い）	分
45	①町の様子の絵を見て、電気はどのように作られたり、利用されたりしているか考え、電気と暮らしの関わりについて問題を見いだす。	①②乾電池につないだ電気がどのようなものに利用されているか考える。（光、音、運動など） 統合　ポイント２	80
45	②手回し発電機や光電池で電気をつくり、作った電気を利用する。手回し発電機や光電池を使うと発電できることをまとめる。 増加	③④手回し発電機や光電池でつくった電気が乾電池の電気と同じような働きをするのか様々な素子につなぎ調べる。結果を基に話し合う。	80
90	③④コンデンサーなどを使うと、蓄電できることを知る。コンデンサーに電気をため、ためた電気を何に変えて利用できか調べる。実験結果を基に、電気は、光、音、運動などに変えて利用できることをまとめる。	⑤⑥コンデンサーにためた電気が乾電池の電気と同じような働きをするのか様々な素子につなぎ調べる。結果を基に話し合う。 ポイント４	80
90	⑤⑥電熱線に電流を流すと発熱するかどうか、発砲ポリスチレンを使って調べ、まとめる。豆電球と発光ダイオードの特長を捉える。 増加	⑦⑧電気を使って働く素子の電気を使う量の違いについて、いろいろな方法で調べ、結果を基に話し合う。 ポイント１（①～⑧）	80
45	⑦電気を効率的に使うために工夫について考え、まとめる。	⑨電気を効率的に使うために工夫について考え、まとめる。	40
135	⑧⑨⑩人が近付くと明かりがつき、しばらくすると消えるプログラミングを作り、明かりをつけたり、消したりする。どれだけ電気を効率的に使うことができたか計測する。 減少	⑩⑪人が近付くと明かりがつき、しばらくすると消えるプログラムを作り、明かりをつけたり、消したりする。どれだけ電気を効率的に使うことができたか計測する。 ポイント３	80
90	⑪⑫これまでに学んだことを生かして、電気を利用したものを作る。 減少	⑫これまでに学んだことを生かして、電気を利用したものを作る。	40
45	⑬電気の働きや利用について、学んだことをまとめる。	⑬電気の働きや利用について、学んだことをまとめる。	40
計			計
585			520

ポイント１　「考察」場面の時間の確保

・第６学年の問題解決の力として重要な「結果から妥当な考えを作り出す力」を育成するために、問題解決の過程の「考察」場面に十分時間を設定するような単元デザインになっている。（①～⑧）

ポイント２　多面的な思考につなげるための導入時の工夫

・電気の「変換」について単元の始めに押さえることで、発電・蓄電でも多様な実験方法を実施することができ、多面的な思考を養うことができる。

ポイント３　他教科との関連による学習活動の削減

・総合的な学習の時間でプログラミング体験と関連付けることで、プログラミングの処理の仕方や仕組みを知る時間を削減する。他教科との関連

ポイント４　意図的な振り返りの時間の設定

・「発電・蓄電」の実験後に振り返りの時間を設定し、気付きや疑問を整理することで、⑤素子の電気を使う量の違いについての問題につなげる。

４０分の授業デザインのポイント

（全１３時間中の８時間目）

■**目標**　電気ではたらくもの（素子）の電気の使われる量の違いについて、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。

■**展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
実験・結果の整理22分	○実験をする。 ・一定量コンデンサーに電気をためる。（手回しは発電機３０回） ・電気をためたコンデンサーにＬＥＤ、豆電球、電子オルゴール、モーターをつなぎ、それぞれの作業時間の違いを調べる。	◆実験前に問題を確認する。また、コンデンサーに電気をためる前に忘れずに、ショートさせることを確認し、正確に実験を行わせる。
	○結果を記録する。 ○学級で結果を共有する。 （それぞれの班の点灯時間を全て一覧にして結果が見えるように大きいグラフに記録する。）	◆結果を整理する時には、数字の小さな差に着目するのではなく、全体の傾向に着目させるようにする。
考察・結論の導出13分	○班で結論をまとめ、考察する。 C:作業時間がモーターが○秒、豆電球が○秒、ＬＥＤが○秒、電子オルゴールが○秒で（結果のとおり）作業時間がどれもばらつきが大きく、違いがあることから、素子によって電気の使われる量は違うことが分かる。この結果はどの班も数値のばらつきはあるものの、同じ傾向があるため信頼できるものである。予想と違い、モーターや豆電球の使われる電気の量が多く、ＬＥＤや電子オルゴールの使われる電気の量が少ないことが分かった。	◆考察のポイントを確認させる。 ①他の班の結果と自分たちの結果を比べて妥当性を検討する。 ②複数の班の実験結果から妥当な結論を考える。 ※電気ではたらくもの（素子）の電気の使われる量の違いについて、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて、より妥当な考えを表現している。（発言・ノート　思・判・表）
	○学級で結論を話し合う。 電気ではたらくものはそれぞれ電気の使われる量が異なる。	◆ホワイトボードに班（小集団）での結論を記入し、学級全体で共有する。 ◆班（小集団）での結論が違う場合、結論を導いた根拠や理由（結果のどの部分に着目して、どのように解釈したか）を視点に話し合いをする。
振り返り５分	○振り返りをして、交流する。 C:ＬＥＤが最近増えてきたのは電気を使う量が少ないからだ。省エネということが分かった。 C:ＬＥＤと豆電球で明るさはあまり変わらないが、ＬＥＤの方が長時間光っているのはなぜだろう。豆電球の熱が関係しているのかもしれない。	◆今回の結果はあくまで、理科室で扱った「モーター」「ＬＥＤ」「電子オルゴール」の使用する電気の量であることを確認しつつ、「ＬＥＤ」と「豆電球」の明るさが同じくらいだが、点灯時間が大きく違うという児童の気付きを学級全体で取り上げ、共有する。（第１時の豆電球の発熱に関係付ける）

本時は、前時と２時間連続の学習となっており、児童が問題意識と見通しをもってスムーズに学習に取り組めるため導入がいらず、その分の時間を「考察する」時間にあてることで、本時のめあてが達成しやすいデザインとなっている。

●学級で班の結果を共有

・自分の班と他の班の結果を共有しやすいように、実験結果をグラフや表に班ごとに示し、多面的に考えるための一つに手だてとして共有をする。

●主体的な学びの視点

・児童に考察のポイントを示した資料を参考にさせることで、考え方・書き方などを自ら見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。

●振り返りの時間の充実

・結論を予想と比較したり、日常生活や既習と関連付けたりすることで深い学びにつなげる。また、新しい疑問を整理し、学級で共有し次時の問題の設定をすることで、次時の導入がスムーズになるようにする。

題材デザインのポイント

例 **第３学年　音楽科　（題材名：リコーダーのひびきをかんじとろう）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×６時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×６時間扱い）	分
45	①リコーダーの音色に興味をもつ。	①リコーダーの音色に興味をもつ。	40
45	②音色に気を付けながら、シの音を吹く。	②音色に気を付けながら、シの音を吹く。	40
45	③「きらきらぼし」を聴き、リコーダーの音色や旋律の変化を楽しむ。音色や運指に気を付けて、「シ」と「ラ」の音を吹く。	③「きらきらぼし」を聴き、リコーダーの音色や旋律の変化を楽しむ。音色や運指に気を付けて、「シ」と「ラ」の音を吹く。	40
45	④３音の運指を練習し、「きれいなソラシ」を演奏する。	④３音の運指を練習し、「きれいなソラシ」を演奏する。	40
45	⑤「ド」と「レ」の運指を練習し、「坂道」「雨上がり」をリコーダーで演奏する。	⑤「ド」と「レ」の運指を練習し、「坂道」「雨上がり」をリコーダーで演奏する。	40
45	⑥「アチャパチャノチャ」をリコーダーで演奏する。	⑥「アチャパチャノチャ」をリコーダーで演奏する。	40
計			計
270			240

ポイント１

ポイント２・３・４（全時間）

ポイント１　題材の見通しをもたせることによる学習活動の効率化

・題材の第１時から第６時までの流れを、黒板に表示して、これから学習する内容を理解する。
　題材を通して使えるワークシートの工夫をする。

ポイント２　一単位時間の見通しをもたせることによる学習活動の効率化及び学習目標の明確化

・本時の流れを表示し、説明の時間を減らしたり見通しをもって学習したりできるようにする。
　また、教科書や資料を電子黒板に投影するための準備を全てやっておく。

ポイント３　学習の取り組み方の学習活動の効率化

・授業１時間の流れ（歌唱・器楽・音楽づくり）をルーティーン化して、動きに無駄がないようにする。
・学び方を学ぶことで、自分の力で学習を進めていけるように、子どもを育成する。

ポイント４　開始終了時刻の徹底による時間の確保

・授業の始まりと終わりの時間をきちんと守ることや話の聞き方など、きちんとできていることが最重要であるため、徹底させる。

４０分の授業デザインのポイント

（全６時間中の３時間目）

■**目標**　リコーダーの音色に親しみ、リコーダーの基礎的な演奏の仕方を身に付ける。

■**展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入３分	○きらきらぼしの曲を聴く。	◆第１時で、これからリコーダーの学習をすること、リコーダーで曲を演奏することなど、一連の流れをつかんでおく。 ◆きらきらぼしの曲を聴き、リコーダーの音色に親しみをもつような声かけをする。
展開32分	○前時を振り返り、めあての確認をする。 ○きれいな音を出すためのポイントを押さえ、音色に気を付けながら、シとラの音を吹く。 ・かっこいい姿勢で吹いてみたいな。 ・なかなかうまく穴をふさぐことが難しいな。 ・タンギングは難しいね。 ・息が強くならないように気を付けよう。 ○指導者の範奏をまねながら、練習１と２、「シ・ラ」の曲に取り組む ・息の強さに気を付けて吹くと、きれいな音が出るよ。 ・曲が演奏できるって楽しいね。	◆前時の振り返りを確認し、本時の活動に見通しをもつ。 ◆音を出す前の準備について、ポイントを押さえながら丁寧に指導する。 **リコーダー学習の導入** ＜きれいな音を出すためのポイント＞ ***姿　勢*** ・背中はピンと伸ばす ・足は床に付けて ***持ち方*** ・左手が上　右手が下 ***支　え*** ・右手の親指で楽器を支える ***穴とじ*** ・指のはらの真ん中で、隙間なく ***音の出し方*** ・下唇に吹き口をのせる ・やさしく息を出して ・タンギングは舌の動きを使って ◆練習１・２、「シ・ラ」の演奏するためのポイントを押さえる。 ＜曲を演奏するためのポイント＞ ・リズム唱→ドレミ唱→メロディー →指使い→タンギング奏→曲の演奏
振り返り５分	○本時を振り返り、学習したことをワークシートにまとめる。	◆題材を通したワークシートの第２時のところに、本時の振り返りを書くよう声を掛ける。 ※タンギングや息の強さなどの演奏の仕方とリコーダーの音色、響きとの関わりに気付き、リコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。 （行動観察、演奏聴取　知・技）

題材の流れを確認した前時を振り返り、本時がどんな学習をするのか見通しをもつ。さらに本時の流れを黒板に提示して、本時の流れやゴールの姿をイメージすることにより、スムーズに活動に入れるようにする。

●課題意識をもち、学びを最後までつなげて深めていくための工夫
・第１時～第６時までの見通しをもてるように、活動内容や感想が書けるワークシートを工夫する。

●学びを次に生かしていくための工夫①
《学び方を学ぶ(ﾘｺｰﾀﾞｰ)》
・姿勢→支え→穴とじ→タンギングの流れを作る。
　これからのリコーダー学習では、この流れで自分で学習を進めていける子どもを育成する。

●学びを次に生かしていくための工夫②
《学び方を学ぶ(曲の演奏)》
・リズム→ドレミ読み→メロディー→指使い→タンギング
　曲を演奏するために、自分で学習を進めていける子どもを育成する。

●学びを次に生かしていくための工夫③
・次時の学習に見通しをもって取り組めるよう、学習したことを振り返る機会を設定する。（題材を通して書くことができるワークシートの工夫）

題材デザインのポイント

例 **第６学年　音楽科　（題材名：日本や世界の音楽に親しもう）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×６時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×６時間扱い）	分
45	①雅楽「越天楽」を聴き、楽器の音色や曲想を感じ取る。統合・削減	①②ゲストティーチャーによる鑑賞授業学習 雅楽「越天楽」を聴き、楽器の音色や曲想を感じ取る。体験、鑑賞・表現の追求	80
45	②「越天楽今様」の歌詞の内容を理解し、発音や発声に気を付けて歌う。統合・削減 ・日本に古くから伝わる旋律の動きを生かした歌い方を工夫して歌う。統合・削減	・「越天楽今様」の歌詞の内容を理解し、発音や発声に気を付けて雅楽の伴奏で歌う。 ・日本に古くから伝わる旋律の動きを生かした歌い方をｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰから学び工夫して歌う。 **＊社会科・国語科の授業と並行して実施**	
45 45	③④様々な国について調べる。様々な国の楽器やその音色に関心をもって聴く。	③④様々な国について調べたことを発表し、楽器やその音色に関心をもって聴く。関連	80
45	⑤それぞれの国の楽器の音色や旋律の特徴などの違いを感じ取る。	⑤それぞれの国の楽器の音色や旋律の特徴などの違いを感じ取る。	40
45	⑥それぞれの国の音楽の特徴や雰囲気の違いを比べながら聴く。	⑥それぞれの国の音楽の特徴や雰囲気の違いを比べながら聴く。振り返り	40
計 270	日本文化に親しむ学習である、第６学年国語科「日本文化を発信しよう」では、本や新聞などを活用してパンフレット作りを行う。家庭学習において、国語科で学習した言語活動事項を活用し、「世界の国々と音楽」について、パンフレットにまとめさせ、掲示し発表する。		計 240

ポイント２・３

ポイント４・５

ポイント５

ポイント１・６（全時間）

統合：内容をまとめる　　削減：学習内容の精選・重点化・活動の充実

ポイント１　内容の焦点化による時間の削減
・毎時間において「学び方が分かる。見通しがたつ。」学習計画を提示することによって内容を焦点化した時間の削減をする。

ポイント２　ゲストティーチャーから学ぶ時間の創出
・ゲストティーチャーから学ぶ鑑賞と表現の一体化をする体験と追求の学習を通して、効果的に表現及び鑑賞の学習を深めることができる。

ポイント３　統合による学習活動の充実
・第１時と第２時を統合することで、効果的に表現と鑑賞の追求ができる。また、第３時と第４時を統合することで、様々な音楽に親しむことが十分にでき、思考・判断に必要な知識・技能の習得、対話的な学びを深めることができる。

ポイント４　他教科等との関連による時間の削減
・第６学年社会科「世界の中の日本」で世界の国々を調べる学習において、オリンピック開催を意識して目黒区文化交流課と連携して大使館職員などと交流する。社会科の指導と関連させることで、音楽科における世界各国についての説明の時間を削減する。また、主体的な学びを育てることができる。

ポイント５　他教科等との関連による学習活動の充実
・第６学年国語科「日本文化を発信しよう」の単元で日本文化に親しむと共に、言語活動で本や新聞などを活用してパンフレット作りを行う。国語科で学習した言語活動事項を活用し、「世界の国々と音楽」について宿題（家庭学習との連携）でパンフレットにまとめ、掲示し発表する。

ポイント６　見通しをもたせることによる学習活動の効率化
・「見通しと学んだ事の実感ができる」ワークシートを作成することで、この題材を通して、何を学ぶか・どう学ぶかの見通しをもつことができる。そして、次の学びに結び付くような振り返りをすることで意欲が高まり、さらに、児童の学びが深まり、変容していく姿を教師が見取ることができる。

８０分(統合)の授業デザインのポイント

（全６時間中の３・４時間目）〔統合した８０分授業〕

■**目標**　様々な国の楽器やその音色に関心をもって聴く。

■**展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	□資料　◆指導上の留意点 ※評価
導入 5分	**様々な国の楽器を知り、音色に親しもう** ○本時の学習内容をワークシートと掲示で確認する。 T:「今日の学習のめあては何ですか。」 C:「様々な国の楽器や音色に親しもうです。」	□目標・学習計画の掲示 □ワークシート ◆社会の時間に調べた内容を宿題でパンフレットに事前にまとめたものを発表することを告げる。
展開 65分	○世界の国について調べたことを発表し、その国の楽器や音色に親しむ。 C:「韓国について調べました。ＢＴＳやＴＷＩＣＥ等のＫポップが有名です。」「日本の箏に似た伽耶琴という琴があります。」 ○それぞれの国の楽器の音色や旋律の特徴などの違いを感じ取る。 ・それぞれの国の楽器や音楽の特徴を動画で視聴する。 ・音楽の雰囲気について気付いたことをワークシートに書く。 ・気付いたことを伝え合い、音色やリズム、旋律、拍の特徴を感じ取る。	□世界地図 ◆国の様子や楽器の特徴、その国の背景などを発表するが、楽器や音楽について中心に発表するよう助言する。 ◆世界地図で場所を確認して共有する。 □調べた国のパンフレット □映像資料（ＤＶＤ等） ◆視聴動画を準備し、視覚的にも捉えられるようにする。 ◆それぞれの国の楽器や音楽の特徴に気付くことができるように、比較して聴いたり、特徴的なリズムを手拍子しながら聴いたりするように助言する。 ※曲想及びその変化と、楽器の音色、旋律の特徴、音の重なり、拍との関わりについて理解している。 （行動観察、ワークシート知・技）
振り返り 10分	○振り返る。 ・聴き取ったり感じ取ったりしたことをワークシートにまとめ、自分の感想や考えを整理する。 ・次時の課題を知る。	◆パンフレットを掲示する事を告げ、それを見て次時までに、良かった所や曲を聴いてみてどうだったか感想を発表することを伝える。
	初めて知る世界の国々の楽器や音色の特徴に気付き、音楽の多様性を感じることができた。	

統合による本時は、導入の時間を５分、思考・判断に必要な知識・技能の習得の時間を３０分、対話的な深い学びを３５分、振り返り１０分とし、８０分の授業内容におさめ、本時のめあてを達成できる効果的な時間のデザインになっている。

●導入は学習計画に基づいて短時間で実施
・学習計画に基づき、児童が本時の学習内容を把握できるようにする。

●「展開」（調べたことを知る）では、社会科・国語科との関連付け
・社会科「世界の中の日本」で調べた内容を国語科の言語活動で学習したパンフレットを作り、紹介して共有する。

●対話的な学びの視点
・友達が調べた発表を聴いたり、音楽を視聴したりする学習を通して、音楽的な見方・感じ方を働かせる時間を十分に確保する。

●友達の発表や映像資料での学習の成果の振り返り
・統合１時間の学習において、事前に調べてまとめたパンフレットを通して、知識が深まり、多様な音楽表現があることを学び、発表から気付き・知識が更新され学習成果を実感できるようにする。

題材デザインのポイント

例 第３学年　図画工作科　（題材名：絵の具＋水＋筆＝いいかんじ）

分	４５分の場合の指導計画（４５分×２時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×２時間扱い）	分
45	①　水彩絵の具の基本的な使い方を知る。 ・筆の扱いを変えていろいろな表現を試す。 ・水の量を加減して、効果の違いを楽しむ。 ・垂らしたり叩いたり、表現の工夫をする。 ・自分の色をつくりながら、思いのままにかくことを楽しむ。	①　水彩絵の具の基本的な使い方を知る。 ・既習事項（第１・２学年時の絵の具を使った活動）を振り返りながら、表現の多様について知識を広げる。 ・自分の色をつくりながら、思いのままに描くことを楽しむ。	40
45	②　自分の色をつくりながら、思いのままに描くことを楽しむ。 ・自分や友達の作品の良さや面白さ、表し方の違いなどを感じ取る。 	②　自分の色をつくりながら、思いのままに描くことを楽しむ。 ・自分や友達の作品の良さや面白さ、表し方の違いなどを感じ取る。 色水づくり・絵具遊び・スクリブルを活用した描画表現など、第１・２学年時に共同絵の具を使った活動をしているので、水彩絵の具の特性や効果については体験的に学習している。既習事項に回帰させることで導入を明解かつ簡潔にし、表現の広がりや深まりに重点を置いた授業展開にしている。	40
計 90			計 80

統合：２つ以上の指導事項を１つにする

ポイント１　既習事項の活用

・第１・２学年時に共同絵の具を使った活動を経験している。そのとき体得した絵の具を使った表現、「筆の感触」、「水を加減することでの色の伸び」や「混色による表現の工夫」を提示し、思い出させることで、導入部分や活動の紹介を簡潔にし、児童の活動時間を十分に保障する。

ポイント２　ＩＣＴ機器の活用

・活動の手順をスクリーンに映して示すことで、児童を集めたり、道具の準備をしたりする時間の短縮を図ると同時に、明確な一斉指導につなげる。

ポイント３　板書掲示の工夫

・準備の最中に手順を忘れてしまった児童のためにパレットや水入れ・雑巾などの使い方や手順の写真を掲示しておく。

ポイント４　鑑賞の日常化

・参考作品を明示することで、活動のめあてを焦点化させたり、活動の見通しをもたせたりする。
・視点を明示して展示作品を見ておくように指示することで、鑑賞の時間を短縮する。

題材デザインのポイント

（全２時間中の２時間）

■**目標**　水彩絵の具の使い方を知り、思いのままに表現することを楽しみ、自分にとっていいと感じる形や色を見付け、工夫して表す。

■**展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
つかむ 10分	○絵の具の基本的な使い方を知る。 T:「第１・２学年でやったことを思い出しながら、混ぜたり、ぼかしたり、いろいろ試しながら描いてみよう」 ○自分の色をつくりながら、思いのまま描くことを楽しむ。	◆絵の具の出し方、パレットでの混色、筆洗いなど、ＩＣＴを活用し実演を見せる。 ・筆先で点々や細い線を描く、太い筆で面にするなど、教師が描いて見せることで、絵の具で描く事への関心をもたせる。 ※水彩絵の具を混ぜたり、描いたりして生まれる色や形を捉えて工夫して表している。（観察　知・能）
	個人持ちの水彩絵の具との初めての出会いである。基本的な扱いを丁寧に押さえつつも、児童が絵の具ならではの味わいを見付ける時間を大切にする。	
表現する 60分	○試したことから、自分の色や形を見付け、表したいことを考える。 C:いろいろな点々で、はずんでいる感じがする。 C:水を少なくしたら、かすれていい感じ。 C:絵の具を混ぜたら、すごく綺麗な色が生まれたよ。 ○自分の色や形を試したり表したりしながら、思いに合う表し方を工夫する。 ・点を描いたら町になった。 ・にじんだ感じが面白いな。	◆試した色や形から思いついて、絵に表すことを伝える。 ・色や形から広がるイメージを、共感的に見守る。 ・用具の扱いが困難な児童には、手を取り一緒にやりながら理解させ、できた色や形に共感的に寄り添う。 ※水彩絵の具で描いた色や形を生かしながら、自分なりのイメージをふくらませて、表したいことを表している。（観察・発言　思・判・表）
振り返る 10分	○つくった色や形の良さや面白さを伝え合う。 C:にじんだところが透き通った感じできれいだね。 C:同じ色でも水の量を変えると感じが変わるんだね。 ○片付けを行う。 ・道具や材料を大切にしながら丁寧に片付ける。	◆面白いところや工夫しているところを見付け、交流する場を設定する。（スライドショーにして見せてもよい。） ※自分や友達の作品のよさや面白さ、表し方の工夫など、気付いたことを発表している。（鑑賞の発言　思考・判断・表現） ◆まとめをし、片付けを行う。 ・材料や用具の点検を行う。
	絵の具を混ぜたり、水の量を加減したりすると表現の多様が体験できる。試しながら色や形をつくることで、描画材の良さを味わい、自分の思いに合わせた表現の工夫をすることができる。	

本時は、知識・技能の習得の時間を既習事項と関連付けて、導入と併せて１０分で終えることで、思考力・判断力・表現力等、発想や構想の時間を重視し、活動時間を６０分（２時間目の３０分と合わせて６０分）かけても４０分授業２コマ内におさまり、本時のめあてを達成できるデザインとなっている。

●道具や描画材の扱いの基本事項の定着
・パレット・水入れバケツなど、初めて個人持ちで使う物の説明はＩＣＴを活用したり、写真を掲示したりするなど視覚的に示す。
・混色・ぼかし・かすれなどの絵の具を使った表現は既習事項を提示して共有する。

●「いい感じ」をつかむから、表現する活動へ
・児童の意欲や表したいことに合わせて時間を調整する。

●対話的な学びの視点
・児童が自分の色や形から表したいことを見付けられるよう、活動を認めたり、友達と交流したりするよう声をかける。

●表現の多様性や工夫を鑑賞する時間の充実
・絵の具表現の特性や可能性を体験的に感じたり見たり、その価値を共有することで、活動の成果を実感する。

題材デザインのポイント

例 **第６学年　図画工作科　（題材名：墨と水から広がる世界）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×４時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×４時間扱い）	分
45	① 学習活動の内容、めあて、見通しをつかむ。 墨と水を使って、いろいろ試しながら表すことを楽しむ。	① 学習活動の内容、めあて、見通しをつかむ。 墨と水を使って、いろいろ試しながら表すことを楽しむ。	80
	増加 →	他題材「おもしろ筆」との関連	
90	② 墨と水から生まれる形や色の特徴を捉えながら、思いに合わせて、工夫して表す。	② 墨と水から生まれる形や色の特徴を捉えながら、思いに合わせて、工夫して表す。 墨や水などに働きかけながら、自分たちの形や色などのよさや美しさを感じ取り、さらに表現を深めていく。	80
	統合 →		
45	③ 自分たちの作品を見合いながら、工夫やよさを感じ取る。	墨という伝統的な材料に触れて感じたことを作り出す喜びは、美しいものや崇高なものを尊重する心につながるものである。道徳の全体計画との関連を図り、指導内容や時期を配慮した。	
計 180			計 160

統合：２つ以上の指導事項を１つにする　増加：重点化、充実を図るために時数を増加

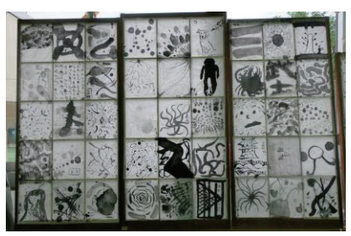
ポイント１　導入の充実
・実際の材料や用具を使った教師の演示による的確な導入を行うことで、児童が学習のめあてと見通しを短時間でもち主体的に学習を展開するとともに、第２時の導入の時間を削減する。

ポイント２　他題材との関連
・他題材「おもしろ筆」（工作）との関連。自分で作った筆も活用し、円滑に学習計画の設定を行う。

ポイント３　学習内容の精選・重点化
・作品を見合う鑑賞の時間を削除し、表すことと見ることをより一体にした学習環境を設定し、表しながらよさや美しさを感じ取る時間を十分に確保する。

ポイント４　他教科との関連
・学習したことを発展的に扱う。墨という伝統的な材料に触れて感じたことなどは、道徳のＣ「伝統や文化の尊重、国や郷土を愛する態度」との関連が深い。

ポイント５　既習事項の活用
・２年間を通した年間指導計画により、既習事項を活用する。



４０分の授業デザインのポイント

（全２時間中の２時間目）

■目標　墨と水から生まれる形や色などの造形的な特徴、構成の美しさなどの感じを捉えながら、自分の思いに合わせて工夫して表す。

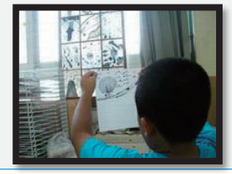
■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
つかむ 5分	墨と水がつくる形や色の特ちょうをとらえ、自分の思いに合わせて工夫して表す。	
	○本時のめあてをつかむ。 T:「墨と水でいろいろ試して生まれた形や色にはどんな特徴がありましたか。」 C:「うすい墨の形が重なっていくと、奥の方へ続く感じがします。」	◆前時の活動や作品をスライドショーで見せ、試みながら生まれる形や色などの特徴に注目して主体的に活動が展開できるようにする。
試す感じる考える 65分	○墨と水、用具を使い、思いに合わせて工夫して表す。 C:「少し離れて見てみよう。ここに何を組み合わせたらいいかな。」 C:「友達のうすい墨の重なりがきれいだなあ。どうやってかいたの？」	◆前時の活動を生かしながら、材料や用具に進んで働きかけていくよう促す。 ◆表しながら作品を展示して見る場を設定し、自由に貼って少し離れて見ながら、友達の活動や作品に自然に触れられるようにする。 ◆児童が繰り返し試みている方法、用具の選び方、形や色に見入る姿などとイメージのつながりを読み取る。
	○表しつつある形や色などにどのようなイメージをもっているか、言葉で整理する。	◆一人ひとりがつくりだした形や色、イメージなど、新しいものやことをつくりだそうとしている姿勢を価値付ける。
	うすくにじんだ形が浮いているように感じたので、濃さを変えて、いくつも重ねて「夏の雲」のイメージで表しました。	
	C:「友達の表し方を取り入れてみよう。」 C:「前につくった“おもしろ筆”をここで生かそう。」	※墨と水が作り出す形や色などの特徴を捉え、思いに合わせて表し方を工夫している。 （観察・作品　思・判・表、知・技）
振り返る 10分	○活動を通して感じたことや思ったことなどを振り返る。	◆一人ひとりの表現を温める雰囲気を作る。
	友達の表し方を見ながら表したら、墨と水の世界がもっと広がりました。表し方を工夫すると、墨と水だけでも思い描いた世界が広がっていきました。	

本時は、導入の時間を５分で行い、自分の表したいことを見付け、工夫して表す時間を十分に確保した。対話的で深い学びを重視し６５分かけても８０分授業内におさまり、本時のめあてを達成できるデザインとなっている。

●導入にはＩＣＴを取り入れ、短時間で実施
・前時の活動の姿や作品の経過画像を見て、短時間で本時のめあてをつかむ。

●対話的な学びの視点
・墨と水で広がる形や色などをもとにイメージをもつ（自己内対話）
・自然に友達の活動や表現に触れ、見方や感じ方を広げる。（他者との対話）



●学習の調整を図っている一人ひとりの活動の共感的な見守り
・教師は、一人ひとりが手掛けている形や色、表し方などから、その児童が何を感じ考えているのか想像力を働かせて読み取る。

●言葉で整理して言語活動の充実を図る
・活動を通して自分が思い付いたこと、表したいと思っていること、考えたことなどを簡単に言葉で整理する。
・〔共通事項〕の形や色、イメージを視点にする。

単元デザインのポイント

例 **第３学年　体育科　（単元名：器械運動　マット運動　）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×８時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×８時間扱い）	分
	毎時間取り組む基礎感覚づくりの運動：ゆりかご・かえるの足打ち・腕支持での川跳び		
45	①　オリエンテーション（ねらい・流れ・安全・場など）	①　オリエンテーション（ねらい・流れ・安全・場など）	60
	今もっている力で楽しむ。	今もっている力で楽しむ。	
	統合	技と技をつなぐ動きを知る。	
45	②　技と技をつなぐ動きを知る。	②　前転の行い方を知る。	40
45	③　前転の行い方を知る。	③　後転の行い方を知る。	40
45	④　後転の行い方を知る。	④　頭倒立・側方倒立回転の行い方を知る。	40
45	⑤　頭倒立・側方倒立回転の行い方を知る。	⑤　コースを決めて自己の課題解決に取り組む。	40
	増加		
45	⑥　コースを決めて自己の課題解決に取り組む。	⑥　コースを決めて自己の課題解決に取り組む。	40
45	⑦　技のつなぎ方を考える。	⑦　技のつなぎ方を考え、学習した技の発表会をする。	60
	統合		
45	⑧　学習した技の発表会をする。		
計 360			計 320

ポイント１

ポイント２

ポイント３

ポイント１・２・４

統合：長時間学習にするために統合　　増加：重点的な学習内容の時数増加

ポイント１　一単位の時間を工夫した、弾力的な単元計画

・４０分授業・６０分授業を活用し、弾力的な単元計画を立てることで、運動の系統性を考え、児童が必要感をもって運動に取り組み、学習のねらいを達成できるようにする。学習内容を学ぶことだけではなく、学び方を身に付けていく視点も大切にする。

ポイント２　系統的な指導を生かし、主体的な学習へつなげる工夫

・自ら考えるきっかけをつくるために、低学年の「マットを使った運動遊び」での動きと動きをつなげる経験を生かし、技の繰り返しや組み合わせ方のポイントを想起できるようにする。技と技をつなぐ指導については低・中・高学年の器械運動で系統的に指導できるようにする。

ポイント３　重点的な学習内容を指導する時間の確保

・第７時に６０分授業内で技のつなぎに関する指導を扱うことで、自己の課題解決のための活動を選ぶ時間を十分に確保できるようにする。

ポイント４　学習した成果を見合う場の設定

・習得したことを活用して発表会を行うことで、他者の運動を見て、考えたこと・思ったこと等を発信し、学習の成果を相互に実感できるようにする。

４０分の授業デザインのポイント

（全７時間中の３時間目）【思考力・判断力・表現力等をねらいとしたデザイン】

■目標　自己の課題を見付け、後転ができるようになるための活動を選択することができる。

■展開

	○主な学習活動	◆指導上の留意点　※評価
導入 10分	○整列・挨拶をする。 ○場の準備をする。 （ペア学習・小マット１４枚）	◆グループごとに準備する役割を事前に明確にする。
	○準備運動・基礎感覚づくりの運動をする。	◆マット運動に必要な運動感覚を意識できるようにする。
展開 20分	後転をするためのポイントを見付けて、練習の場を選ぼう。	
	○後ろ転がりをする。	◆後転の４つの行い方をしている児童を見付け称賛する。
	○後転の行い方を知る。	◆ポイントを全体で共有する。
	○後転に取り組む。	◆後転のポイントを考え、後ろ転がりとの違いを明確にしながら、友達と運動を見合う姿を価値付ける。
	○練習の方法を知る。	
	○場を選んで活動する。	
	○後転の行い方を振り返る。	◆技のポイントは資料・掲示物で共有できるようにする。
	・遠くにお尻を着く。 ・体を丸め、おへそを見ながら、お尻、背中、後頭部の順番で回る。 ・回っている間、手はマットに着く。 ・両手でマットを強く押す。	※自己の課題を見付け、後転ができるようになるための活動を選択しようとしている。 （観察　思・判・表）
まとめ 10分	○整理運動をする。	◆よく使った部位を重点的に扱う。
	○学習の振り返りをする。	◆後転を行う際に意識したことなどをカードに記入できるように促し、共有する。
	○片付けをする。	◆安全に配慮し、片付ける姿を価値付ける。
	○整列・挨拶をする。	

（全７時間中の６時間目）【知識及び技能をねらいとしたデザイン】

展開 25分	○めあてを確認する。	発表したい技を練習しよう。
	○個人の課題に応じてコースを決める。	
	○課題解決に向けて取り組む。（チャレンジタイム①）	
	○取り組んでいる技を友達と確認し合う。（チェックタイム）	
	○課題解決に向けて取り組む。（チャレンジタイム②）	
まとめ５分	○整理運動をする。 ○学習の振り返りをする。（短時間化） ○片付けをする。 ○整列・挨拶をする。	

本時は、低学年での運動遊びを生かして、後転を学習する時間である。主体的に学習できるよう、既習の運動経験からポイントを見付けて、課題解決していけるようにする。

●基礎感覚づくりの運動
・毎時間の導入では、マット運動に必要な運動感覚を養う時間を設定する。

●運動の系統性の意識化
・運動の系統性を意識して技のポイントを焦点化する。技能ポイントを意識できる発問をすることで、技を見合う視点を明確にした対話を促す。

●体育館を使う上での環境整備
・技のポイントなどは毎時間、体育館に掲示し、次時以降も学びの過程を実感できるようにする。
・体育館割り当ての固定時間割を学年で連続にすることが、準備・片付けの時間短縮につながる。

●重点化した観点の明確化
・知識及び技能の習得をねらいとしたデザイン例である。
・展開の時間を増やし、技能の向上を図る。

●技能習得を目指すための運動量の確保
・技能を習得するために、ＩＣＴ機器を活用して、友達と関わりながら技能を習得できる学習計画とする。ペアでマット１枚という場を設定することや、振り返りを短時間化することで、運動量を確保し、技能習得を目指せるようにする。

単元デザインのポイント

例 **第６学年　体育科　（単元名：ボール運動　ソフトバレーボール【ネット型】）**

分	４５分の場合の指導計画（４５分×８時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×８時間扱い）	分
45	①ソフトバレーボールを理解し、基本のパスを身に付ける。（試しのゲーム） 統合	①試しのゲームをして、上手にボールをつなぐコツを考える。 ポイント２	40
45	②トスの技能を身に付け、みんなでたくさんつなげる。 統合	②③④ ゲームを楽しみながら、レシーブからアタックまでのボールの流れを安定してできるようにする。	40
45	③レシーブの技能を身に付け、トスとレシーブでラリーを続ける。（ラリーゲーム） 統合		40
45	④アタックを身に付け、チームで攻撃の作戦を考える。	ポイント３ ルールは毎時間、児童で話し合い決めていく。	
45	⑤攻撃だけではなく、守備の作戦も考えてゲームに生かす。 増加	⑤自分のチームの特徴を生かしたり、課題を把握したりして、作戦を考える。	40
45	⑥作戦をレベルアップさせる。	⑥自分のチームの特徴に応じた作戦でゲームをする。	40
45	⑦⑧ 作戦を意識してゲーム大会を行う。	ポイント１ ⑦ゲーム大会を企画する。（作戦の練り直し）	20
45	・コートを３面張る。 ・１チーム４～５人。	⑧ゲーム大会を開催する。	60
計		国語科「みんなで楽しく過ごすために」の学習活動のまとめとして「ゲーム大会」を企画する。 ポイント４	計
360			320

統合：ゲームにつながる技能を身に付けるために統合　　増加：重点的な学習内容の時数増加

ポイント１　１単位の時間を工夫した、弾力的な単元計画
・２０分授業、６０分授業の弾力的な組み合わせで、学習に必要な時間を最適化する。（第７・８時）

ポイント２　試合で生かせる技能を身に付けるためにレシーブからアタックの流れを大切にする
・技能の習得はレシーブからアタックまでの流れで捉えさせ、チームで安定してつなげられるように練習に取り組み、個人の技能も同時に習得できるようにする。そのため、作戦を考える学習時間を十分に確保することができる。

ポイント３　ルールを見直す時間を毎時間確保
・ゲームのルールは、ゲームを通して改善ポイントを毎時間話し合い、児童で作り上げていく。

ポイント４　他教科との関連
・学習したことを発展的に扱う「ゲーム大会を開催する」は、国語科の話す・聞くの単元「みんなで楽しく過ごすために」と関連付ける。

４０分の授業デザインのポイント

（全８時間中の３時間目）【知識及び技能の習得をねらいとしたデザイン】

■目標　相手のコートに返球するとき、味方がアタックしやすいパスを出すための動きやパスができる。

■展開

	○主な学習活動	◆指導上の留意点　※評価
導入 10分	○整列・挨拶をする。 ○めあてを確認する。	◆学年で体育の時間を連続して実施し、準備が済んでいる状態で授業を始める。
	アタックしやすいパスの仕方を考えよう。	
	○準備運動をする。 ○ゲームにつながる運動をする。	◆アタックのポイントの確認をしてから取り組む。
展開 20分	○ゲーム① ・課題を見付ける。 ・解決方法を考える。 ゲーム後に解決方法をチームで考える。 ○チームでうまくいったことを話し合う。 ○ゲーム② ・話合いを受けて、ゲームを行う。	◆アタックを打つ人にパスを出す人がどのように動いて、どのようなパスを出すとよいか課題を明確にする。 ◆ミニホワイトボードを用いて、より具体的にイメージしやすいようにする。 ※山なりのパスをすることができている。 （観察　知・技）
まとめ 10分	○整理運動をする。 ○本時の学習を振り返る。 ○学習カードを記入する。 ○ルールの確認をする。 ○片付けをする。 ○整列・挨拶をする。	◆全体で本時のめあてを振り返り、次時のめあてにつなげる。 ◆バレーボールの上達ポイント、よかったプレー、言葉かけについて発表し、よさを広める。 ※自分や仲間がどのように動いたらいいか伝えたり、書いたりしている。 （学習カード　知・技）

（全８時間中の５時間目）【思考力・判断力・表現力等をねらいとしたデザイン】

展開 25分	チームの課題や特徴を基にした作戦について話し合い、アタックを決められるようにしよう。 ○試しのゲームをする。（交代して観察者となり、チームの現状を把握する） ○作戦について話し合う。 ○作戦を実行に移し、ゲームをする。	
まとめ5分	○整理運動をする。 ○学習カードを記入する。 ○ルールの確認をする。 ○片付けをする。 ○整列・挨拶をする。	

本時は、知識・技能の習得を目指した時間である。
そのために、本時の活動は、個人のボール操作とボールを持たないときの動きが身に付けることができるデザインとした。

●時間割りや環境の整備
・学年で体育の時間を連続して実施し、準備や片付けを相互に行うことで、学習時間を確保することにつながる。

●帯で技能を習得
・ゲームにつながる技能を身に付ける運動を毎回設けることによって技能の習得を確実にする。
・ゲームを行う時間でもゲームにつながる技能を身に付けることを促し、「知識・技能」習得の時間をしっかり確保できるようにする。

●成果を振り返る時間の充実
・めあての達成を確認・共有する時間を確保するため、話合いのポイントを明確にする。
・本時ではゲームを通して山なりのパスができているかを振り返るようにし、学習の成果を実感できるようにする。

●重点化した観点の明確化
・思考力・判断力・表現力等をねらいとしたデザイン例である。
・話合いの時間を確保するため、展開の時間を長くとる。

単元デザインのポイント

例 **第３学年　外国語活動　（単元名：What do you like?）**

ポイント１

分	４５分の場合の指導計画（４５分×４時間扱い）		４０分の場合の指導計画（４０分×４時間扱い）	分
45	①日本語と英語の音声の違いに気付くとともに身の回りの物の言い方を知る。	統合削減	①日本語と英語の音声の違いに気付くとともに身の回りの物の言い方を知り、慣れ親しむ。	40
45	②身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	増加	②何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、尋ねたい内容ごとにグループを作る。	60
45	③相手に何が好きかを尋ねたり答えたりする。	統合削減	③相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりする。	40
45	④相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりする。	増加	④尋ねたことをグラフにまとめて発表する。	20
計 180				計 160

ポイント２

ポイント３ ③・④

統合・削減：合わせて減らす　　増加：時間を増加

ポイント１　導入の工夫

・第１時では、進出語句や表現との出会わせ方を工夫することで、時間を削減しても十分に慣れ親しめるようにする。

ポイント２　長時間学習

・第２時では、短時間学習と結び付けて６０分にすることで、活動や児童の気持ちの高まりを途切れさせることなく学習を展開させ、次時への発展的な学習につなげられるようにする。

ポイント３　他教科との関連

・第３時では、学級活動と関連させ、学級遊びの内容をインタビューで決める活動を取り入れる。また、第４時では、算数科の棒グラフの学習と関連させ、インタビューで聞いた内容をもとに棒グラフを作成する活動を行う。このように、生み出した時間で他教科の活動に発展させ、外国語活動で学んだことを実際の場面で活用することにつなげている。

４０分の授業デザインのポイント

（全４時間中の３時間目）

■目標　　相手に伝わるように考えながら、好きなことを尋ねたり答えたりしている。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入 5分	○挨拶、ウォームアップをする。 【Let's Chant】 What do you like?	
	○前時を振り返り、活動の見通しをもつ。 ○本時のめあてを知る。	◆HRTとALTのミニトークでは、本時で扱う語句や表現を使って会話をする。 ◆インタビュー結果をもとにグラフを作ることを知らせ、活動の見通しをもたせる。
	Today's aim　みんなの好きなことをインタビューしよう。	
展開 30分	○各グループの予想を発表する。	◆グループで、何が１番になりそうか予想を立て、発表させる。
	○グループで作戦の確認をする。	◆インタビューの尋ね方や誰に尋ねるかを確認させる。
	○【Activity】 友達と好きなこと（遊び、スポーツ等）を尋ね合う。	◆中間指導を行い、インタビューを行う上で困ったことやよかった点を確認する。 ※好きなことを尋ねたり答えたりしている。 （ワークシート、行動観察、振り返りカード）
振り返り 5分	○本時の活動を振り返り、振り返りカードに記入する。 ○終わりの挨拶をする。	◆ALTは、本時の活動についての感想を伝える。

HRTとALTのミニトークで、その時間に扱う語句や表現を使って会話をすることで、活動にスムーズにつなげることができる。

●本時のゴールの提示

・導入で、前時のインタビュー結果をもとにグラフを作ることを伝え、活動の見通しをもたせる。

●言語活動の充実

・ＨＲＴとＡＬＴのミニトークでは、本時の活動につながる内容を話題とする。また、児童を巻き込んで会話をすることで、語句や表現に慣れ親しめるようにする。

●「主体的・対話的で深い学び」の保障

・中間指導を行い、活動中に困ったことや疑問に思ったこと等を全体で確認する。また、模範となる児童を紹介し、次の活動につなげるようにする。

●短時間学習における授業展開の工夫

・本時のインタビュー結果を基に、短時間学習で算数科で学習した棒グラフを作成する活動を行う。短時間学習と合わせることで、外国語活動で学んだことを実際の場面で活用する時間を確保することができる。また、学級活動と関連させ、一番人気があった遊びを実際の学級遊びで取り入れる。

単元デザインのポイント

例 **第６学年　外国語科　（単元名：Let's go to Italy.）**

ポイント１　毎時間

分	４５分の場合の指導計画（４５分×８時間扱い）	４０分の場合の指導計画（４０分×７．５時間扱い）	分
45	① 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	① 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	40
45	② 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	② 世界の有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。	40
45	③ おすすめの国や地域と、その理由について尋ね合う。	③ おすすめの国や地域と、その理由について尋ね合う。	40
45	④ 行ってみたいおすすめの国の有名なものを調べて、尋ね合う。	④ 行ってみたいおすすめの国や地域と、有名なものについて尋ね合う。また、世界遺産について考え、世界と日本のつながりについて理解を深める。関連	40
45	⑤ 「旅行案内カード」を作って、やり取りをする。	⑤ 行ってみたいおすすめの国や地域と、その理由について伝え合う。	40
45	⑥ おすすめの国についてポスターを作って発表する。	⑥ 英語の語の役割について知り、オーストラリアについて理解を深める。	40
45	⑦ 世界遺産について考え、世界と日本についての理解を深める。	⑦ 行ってみたいおすすめの国や地域について、５年生に分かりやすく紹介する。	60
45	⑧ 英語の語の役割について知り、オーストラリアについて理解を深める。	言語活動の充実	
計 360			計 300

ポイント２ ①～③

統合 組み換え

統合

ポイント３ ④・⑦

ポイント４

統合・組み替え：時間の統合と入れ替え　　増加：時間の増加

ポイント１　スモールトークの設定

・毎時間スモールトークを設定し、新しい語句や表現に触れさせることで、児童が思考を働かせ、推測・想像する時間を十分に確保する。

ポイント２　書く活動の工夫

・「旅行案内カード」を作成する時間を削減するために、第１～３時の授業で書く時間を設定し、まとめておく。

ポイント３　時間の削減

・第４時に向け、総合的な学習の時間「国際理解」と関連させ、世界の国や地域についての理解を深めておくこと、また、第７時に向け、ＩＣＴ等を活用しポスターを事前に作成しておくことで、時間を削減することができる。

ポイント４　弾力的な組み合わせ

・２０分の短時間学習との弾力的な組み合わせで６０分の授業とし、言語活動の充実を図る。（第７時）

４０分の授業デザインのポイント

（全７時間中の２時間目）

■目標　世界で有名な建物や食べ物などについてのやり取りのおおよその内容を理解する。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入 12分	○挨拶 ○スモールトーク 指導者と児童のやり取り（ALT の質問に対して） C：Yes, I do. No, I don't. Me, too., Really?, Nice.等 ○めあての確認 T：「ALT の先生の話を聞き、今日の学習のめあては何だと思いますか。」	◆映像や音声を用いることで、児童が新しい語句に注目して意味を推測し、話の概要をつかめるようにする。また、やり取りを通じて発話しながら語句や表現に慣れ親しませるようにする。
展開 24分	Today's Aim：世界の有名な建物や食べ物について知ろう。	
	○児童同士のやり取り スモールトークのやり取りを手本とし、相手の行きたい国を推測して伝え合う。 C１：Can you guess which country? Hint 1: You can see the Colosseum. Hint 2: You can eat pizza. C２：You want to go to Italy. C１：That's right. It's your turn.	◆相手の行きたい国が分からないときは、質問してヒントを聞くよう伝える。 ◆中間指導では、やり取りをする上で困ったことを全体で共有し、後半の活動につなげられるようにする。 ◆前半１０分、中間指導４分、後半１０分を目安に、聞き手と話し手やペアを交代させながら行う。
まとめ 4分	○書き写す活動 モデル文の音声を聞き、声に出して読む。本時で扱った国の中から興味のある国についての一文を４線に書く。	◆４線黒板等を用意し、大文字・小文字を意識して書かせる。語と語の間には隙間をあけ、文の終わりにはピリオドを打つことを指導する。
	Italy is a nice country.	
	○振り返り 前時及び本時の活動を振り返り、シートに記入する。 ○挨拶	◆本時の成果や課題を共有する。児童の発言を受けて、称賛や助言を行う。 ※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価は行わない。学習状況（~ is…., You can ~., It's ~.およびその関連語句などについての理解）は把握しておく。

導入のスモールトークで前時までの復習と本時で扱う表現を示し、慣れ親しめるようにする。やり取りの時間を十分確保し、書き写す活動は、本時の学習のまとめとして行う。

●本時のめあての設定

・スモールトークで、めあてにつながる内容を扱い、児童から引き出して設定する。

●言語活動の充実

・スモールトークでは、HRT と ALT の会話に児童を巻き込むことで、児童の様子を見取りながら語句や表現に慣れ親しませる。また、活動につながる内容を扱うことで、説明が必要なくなり、導入から活動へスムーズに展開させることができる。
・思いを伝え合う活動を充実させ、外国語のコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた学びにつなげられるようにする。

●書き写す活動の導入

・毎時間の授業で書く活動を設定し、単元の終末で、書き溜めたことをまとめて発表できるようにする。

●振り返りの工夫

・本時の振り返りと本単元の到達度を短時間で適切に振り返ることができるよう、Can-do リストを兼ねたシートを作成する。

主題デザインのポイント

例

第３学年　特別の教科　道徳
（主題名：励まし合う友達）
（内容項目：「友情、信頼」Ａ主として自分自身に関すること）
（教材名：「いいち、にいっ、いいち、にいっ」）

１　ねらいとする道徳的価値について

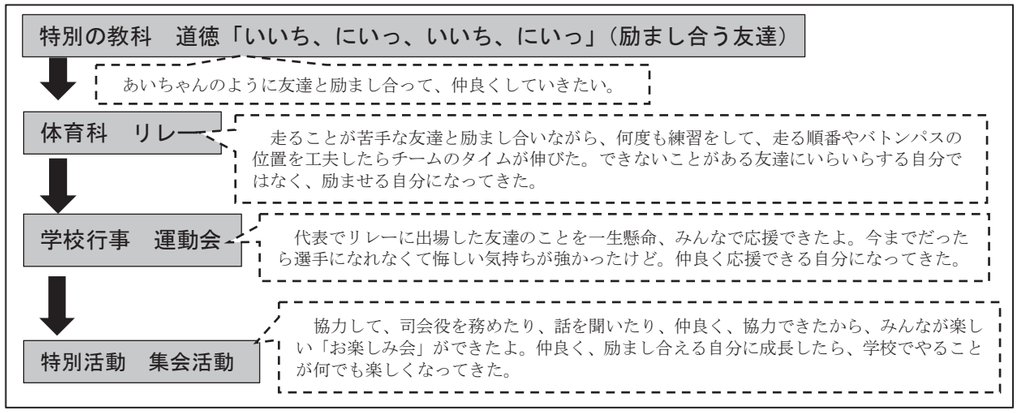
友達は、互いに関わり合い助け合うことにより、心が通じ合う。相手を信頼し、友情を育んでいくことは豊かな人生を送るうえで、大変重要である。助け合い、励まし合いながら互いに成長していくことが大切である。

２　児童の実態

この時期の活動的であり、集団で行うスポーツなどの運動を好む反面、勝敗にこだわるあまり、相手を傷つけるような言い争いも多く見られる。勝ちたいために相手の気持ちが理解できず、自分中心の考えになりがちである。

３　他教科との関連

道徳の時間を要として、他教科・領域と関連付けて、年間をとおしてどのような児童を育てていきたいのかを図で示した。



４　家庭との連携

本主題は、ユニット「いじめのない世界へ」に関連した教材である。学級編成後、人間関係が落ち着いてきたころに、これからの学級づくりの基盤として、いじめを生まない心を育てていきたい。そのためには、保護者会や個人面談などの機会に、児童の様子を保護者と話し合ったり、道徳のおたより等で学級担任の思いを発信したりすることにより、学校、地域、家庭との協力で児童の心を育んでいきたい。

特別の教科　道徳における４０分授業のポイント

ポイント１　導入におけるアンケートの活用
・学習予定の主題や道徳の内容項目に関わるアンケートを事前に実施することで、学習内容の趣旨を端的に示し、短時間で学習の方向性を示す資料、意図的指名を計画するための資料とする。

ポイント２　役割演技の活用
・役割演技をとおして判断力を高め、複数の意見が児童から示され、考えが広がるようにする。

ポイント３　終末の工夫（効果的な画像の活用）
・学習した主題に関わる学級の様子やこれまでの経験を思い描けるように「遠足」や「運動会」などの写真を提示し、友情、信頼の心情を高め、ねらいとする価値の方向付けを促す。

ポイント４　問題解決的学習展開
・導入で主題に関わるめあてを設定し、解決に向けて資料を読んだり、話し合ったりする。

４０分の授業デザインのポイント

■教材名　「いいち、にいっ、いいち、にいっ」　友情、信頼

■目標　友達と互いに理解し、助け合っていこうとする態度を養う。

■展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入５分	○友達について話し合う。 T:「友達」という言葉から、どんなことをイメージしますか。 C:優しい。 C:助ける、励ます。 T:みんなは、友達としては、助け合ったり、励まし合ったりしているかな。 C:している。 C:でもけんかすることもある。	◆言葉からイメージすることねらいとする価値への方向付けを図る。 ◆詳しい体験には踏み込まず、「友達は助け合うのだろうか。」と、問い、本時の課題にする。
展開前段15分	○「いいち、にいっ、いいち、にいっ」を読んで話し合う。 T:ちえが，あいちゃんのお母さんに「ちがうの、そうじゃないの。あいちゃんのおかげで１番になったの。」と言いたかったのは、どうしてでしょうか。 T:ちえは、どうして（あいちゃんと組んだら、いやだな。）と思ったのですか。 C:あいちゃんは、走るのが遅いから。 T:何回やってもうまくできなかったとき、ちえはどんな気持ちだったのでしょう。 C:あいちゃんはやるきがない。 C:友達なんだからがんばろう。 C:あいちゃんを上手にさせよう。	◆ちえの「いやだな。」という気持ちを多様に話し合う。 ◆喜んでいる気持ちを問い、失敗する二人の発問につなげる ◆あいちゃんを「批判する気持ち」や「もっと励ましていこうという気持ち」など役割演技を効果的に使い様々な感じ方を出させる。
展開後段15分	○友達と励まし合ったり、助け合ったりした経験を話し合う。 T:学級の友達と励まし合ったり、助け合ったりしてがんばったことはありますか。 C:運動会の表現でチームができなかったとき、声をかけ合った。	◆経験が話しやすいように行事や授業など写真を用意する。 ※励まし合い、助け合う友達の視点に、自己の在り方を見つめているか。 （ワークシート）
終末５分	○友情をテーマにした曲を学級の写真を振り返りながら、全員で歌う。 今日の学習、そして今までの友達との助け合い、励まし合い思い描きながら歌い、温かい雰囲気の中、余韻を残して学習を終える。	◆互いのことを思いやり、励ます内容の歌を歌う。

「発問を精選」「ポイントをしぼった活動」「効果的な画像」の工夫を行うことで、４０分の授業時間であっても、ねらいとする価値に児童が迫ることができる。

●アンケートの活用
・「友達」のイメージについては、あまり深入りせず、「友達」から思い描くことについて事前にとったアンケート結果「友達は助けてくれる」から、「友達は本当に助けてくれるの？」と切り返し、意見が分かれることで課題を設定し、時間を短縮できる。

●発問の精選・構成
・喜んでいる二人の気持ちを、まず問い、そこまでに至る困難が児童から出やすいように発問を大きく２つにしぼり、精選する。

●効果的な役割演技
事前のアンケートを踏まえて、意図的指名を行い「助け合い」「励まし合い」の観点が児童の意見から示されるようにする。加えて、話合いをとおして、違った観点の児童の考えを教師が引き出し、考えが広がるようにする。

●効果的な画像の活用
・助け合い、励まし合う、経験を思い描けるように「遠足」や「運動会」などの写真を提示し、ねらいとする価値の方向付けを促す。

主題デザインのポイント

例 **第６学年　特別の教科　道徳**
（主題名：明るく生きる）
（内容項目：「正直、誠実」Ａ主として自分自身に関すること）
（教材名：「手品師」）

１　ねらいとする道徳的価値について

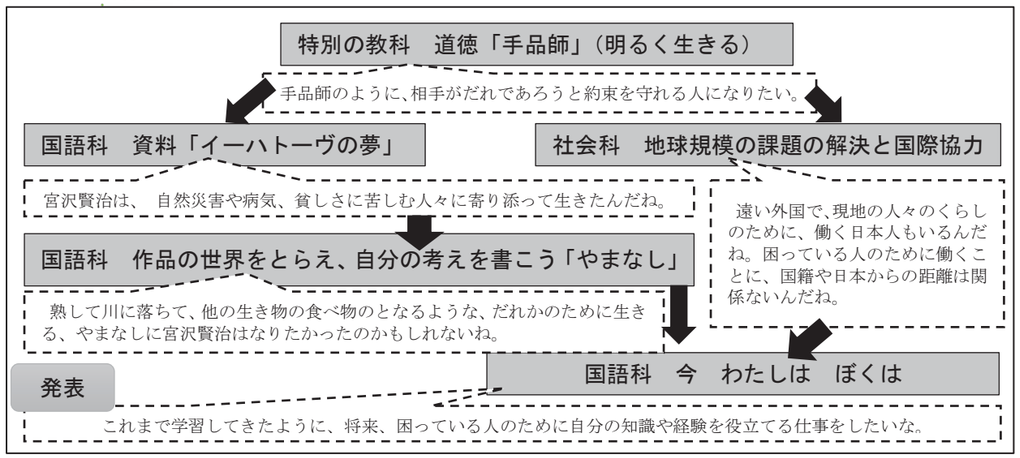
誠実とは、真心であり、誠の行いである。集団生活の中で誠実に明るく行動し合うことは、楽しく快適に暮らすためにも大切なことである。良心に従って精一杯努力したり、人に対して陰ひなたなく真心をもって接したりしようとする心情を育むようにする。

２　児童の実態

誠実に明るく生活することの大切さについて、大多数の児童は理解している。しかし、実生活においては、利害関係などから不誠実な言動を取ったり、自己防衛や自己顕示の欲求から、他に対してうそをついたり、ごまかしたりする児童も見られる。

３　他教科との関連

道徳の時間を要として、他教科・領域と関連付けて、年間をとおしてどのような児童を育てていきたいのかを図で示した。



４　家庭との連携

保護者会や個人面談、学年だより等をとおして、日頃の行動の中で、誠実にできなかったことがあれば、その時の子どもの気持ちや家族の気持ちについて話し合うことや、保護者が今まで見聞きしてきた誠実さを貫いた人の具体例があれば児童に話すことについて協力を依頼する。

特別の教科　道徳における４０分授業のポイント

ポイント１　発問の精選
・展開前段に発問を１～２問、展開後段も発問を１～２問に精選する。

ポイント２　板書の精選
・児童の発言を全て書くのではなく、キーワード化して端的に書いたり、複数の児童の意見をまとめて書いたりする。

ポイント３　終末の工夫
・今日話し合ったことがより深まり、これからの実践意欲につながる内容で説話等をすることが望ましい。１～２分程度に収め、詩や格言、教師の体験談でねらいに合った事柄を端的に話す。今日の話合いを振り返るだけでもよい。

ポイント４　端的で効果的な導入
・「今日は○○」について考えるよ。○○ってどういうことかな。」など、ねらいに迫るキーワードについて聞いたり、事前にとったアンケートの結果を提示したりして、本時の学習の方向性を明確に児童に示し、５分程度で終わらせる。

４０分の授業デザインのポイント

■**教材名**「手品師」　正直・誠実

■**目標**　どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

■**展開**

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆指導上の留意点 ※評価
導入５分	○「誠実」について考える。 T:「誠実」や「誠実な生き方」とはどんな生き方でしょう。 C:真面目な生き方。 C:きまりを守る生き方。	◆児童が知っていることを出させる程度にする。
展開前段15分	○「手品師」を読んで話し合う。 ①T:友人の誘いを断るまでの間、手品師はどんなことを考えたでしょう。 C:自分の夢はかなえたい。 C:約束は守らなければ。 ②T:たった一人のお客様の前で、手品を演じているときの手品師はどんなことを考えていたでしょう。 C:約束を守れてよかった。 C:すがすがしい気持ちだ。	◆教材は、デジタル教科書や朗読ＣＤの活用、教師の範読。 ◆手品師が結論を出すまでの気持ちを話し合う。 ◆男の子の気持ちも押さえる。 ◆誠実に行動した心の明るさについて深く考えられるようにする。
展開後段18分	○今までの自分について振り返る。 ①T:「男の子との約束を優先させた手品師は、生きる上で何を大切にしているでしょうか。」 ②T:「自分が迷ったけれど、そうしたほうがよいと思って行動に移せたこと、移せなかったことはありますか。」	◆他者だけでなく、自分の心に対しても誠実に生きることの大切さについて考えさせる。 ◆誠実に行動するためには、思いやりや親切、勇気、正義なども関連していることを押さえる。 ◆自分の考えをワークシートに記入させる。 ※誠実に行動することの大切さについて自己をみつめていたか。（ワークシート）
終末２分	○教師の説話を聞く。	◆東京都教材集「心たくましく」を活用する。

道徳科の展開は、４０分を前半２０分、後半２０分の大きく２つに分ける。
①前半は「導入及び展開前段」で主に資料の読み取りを行う。
②後半では、「展開後段及び終末」で主に自分を振り返る時間にあてる。

●「導入」の短縮
・ねらいに迫るキーワードについて聞く、アンケートの結果を提示する等ある。展開後段に活用するためのものと考え、深入りせずに５分以内で終わらせる。

●「展開前段」での発問の精選
・資料に関する発問は２つにしぼる。最初の発問までの話のあらすじを、登場人物や場面絵を活用しながら児童と一緒に把握する。登場人物の絵を示しながら、簡単にあらすじを把握させると時間を短縮できる。

●「展開後段」での発問の精選
・展開後段では、自己の振り返りに関わる資料についての発問と、自己を見つめるための発問の２つにしぼる。

●考えを広げ高めるための対話的な学び
・後段では２～３人による話合い活動を行うことで、児童の考えを広げ、高めることができる。

●「終末」の短縮
・今日話し合ったことがより高まり、実践意欲につながる内容が望ましい。１～２分程度。詩や格言、教師の体験談でねらいに合ったものがなければ、今日の話合いを振り返るだけでもよい。

令和２年度　研究開発学校　授業力向上研修

ねらい	研究開発学校の教員として求められる資質・能力（カリキュラム・マネジメント能力、４０分授業力、生活指導力等）の向上を図り、日々の授業に生かす。	対象者	研究開発学校全教員

研究開発学校の日　令和２年　７月　３日（金）

WG部員の教員

会　場：目黒区中小企業センター
ねらい：目黒区立小学校の研究開発学校の研究について理解を深める。
　　各部会における取組について共通理解を図る。

全体会の様子

WGでの協議の様子

【感想】
４０分授業午前５時間制は、児童の学習理解を高めるだけでなく、生活リズムの維持や、授業時間を柔軟に考えられること、放課後の時間の有効活用など、様々な面で利点が挙げられる。いかにして４０分で授業を展開し、かつ児童にしっかりと学力を定着させるか。今後も研究を進めていく。

WG部員以外の教員

会　場：各所属校
ねらい：「目黒区研究開発学校着任者研修」プレゼンテーション資料を通して、目黒区の研究開発学校の取組について理解を深める。

【感想】
４０分授業午前５時間制、目黒区の教育活動の特色について、その効果などを学ぶことができた。
限られた時間の中で、子どもたちに何を学ばせるか（身に付けさせるか）を明確にし、日々の教材研究を行っていきたい。

研修アンケートの結果（一部抜粋）
研修の内容について理解が深まった・・・平均３．６ポイント（４ポイント中）
全６項目の平均・・・・・・・・・・・・・平均３．６ポイント（４ポイント中）

各WG開催（日時及び会場はWGによる）

ねらい：単元デザイン及び４０分の授業デザイン、年間指導計画について協議し、授業力向上を図る。
※教科のWGでは、講師の先生方にご指導いただきました。（以下講師一覧）

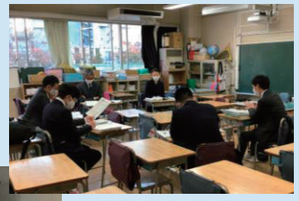
教育課程部会
調査分析部会
国語科部会　西村　佐二　先生
　聖徳大学大学院教職研究科元教授
社会科部会　池田　芳和　先生
　東京福祉大学・大学院教育学部教授
算数科部会　柳瀬　　泰　先生
　玉川大学教師教育リサーチセンター教授
理科部会　竹花　仁志
　目黒区教育委員会事務局教育指導課長
音楽科部会　津田　正之　先生
　国立音楽大学音楽学部
　音楽文化教育学科教授
図画工作科部会　奥村　高明　先生
　日本体育大学児童スポーツ教育学部
　児童スポーツ教育学科教授
体育科部会　村尾　知昭　先生
　鷹番小学校元校長
外国語科部会　直山　木綿子　先生
　文部科学省初等中等教育局視学官
特別の教科　道科部会　生形　　章　先生
　秀明大学学校教師学部教授

研究開発学校の日とは？
　研究開発学校１５校の教員が、研究開発学校の教員として求められる資質・能力を向上させることを目的とした研修日。
WGとは？
　各研究開発学校から教育課程部会、調査分析部会、各教科部会に専門性の高い教員でワーキンググループ（WG）を構成。さらに、研究開発学校以外の学校所属の目黒区立学校授業スペシャリストも部会に所属している。

研究開発学校の日　令和２年１１月１３日（金）

WG部員の教員

会　場：下目黒小学校・中目黒小学校・月光原小学校
ねらい：「単元デザイン・４０分の授業デザインのポイント」を踏まえた授業について協議することを通して、授業力の向上を図る。


WGでの協議の様子

中目黒小発表の様子

【感想】
WGでは、作成した年間指導計画の検討を行った。教科の特性を生かした項目を取り入れ、指導内容を明確にすることができた。自身の授業でも意識をしていく。
４０分授業を充実させていくには、ねらいの重点化が大切だと考えました。マネジメントの効率化を図りながら子ども自ら問いをもち、主体的に取り組む学習をつくっていきたい。

WG部員以外（会場で研修する教員）

会　場：下目黒小学校・中目黒小学校・月光原小学校
ねらい：「単元デザイン・４０分の授業デザインのポイント」を踏まえた授業について各校の報告を聞き、協議することを通して、授業力の向上を図る。

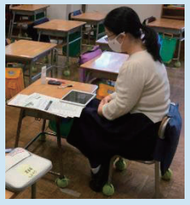
【感想】
体育科の校内研究について報告した。教員間の共通理解を一層図ることができたので、今後さらに研究を深めていきたい。
　協議会では、他校の取組の様子を知ることができた。本校の学校グランドデザインの参考にしていく。

WG部員以外の協議の様子

WG部員以外（所属校で研修する教員）

会　場：各所属校（オンラインで実施）
ねらい：中目黒小学校の報告をオンラインで参観した上で、協議することを通して、授業力の向上を図る。

【感想】
４０分授業午前５時間制により生み出された時間の活用について、現状を見直し、ＯＪＴや教材研究など有意義に使いたい。４０分の授業デザインについて、中目黒小学校Ｄ分科会の報告を参考に、課題を解決するため「つかむ」「考える」「まとめる」を意識して考えてみたい。


所属校で研修を受ける様子

研究開発学校の日（研究発表会）令和２年１２月１１日（金）

会　　場：田道小学校
ね ら い：授業を会場またはオンラインで参観し、協議や講師の指導を通して、授業力の向上を図る。
研究主題：「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせた学びの実現
　　―『４０分授業午前５時間制』におけるカリキュラム・マネジメントを生かして―」
講　　師：文部科学省初等中等教育局　視学官　直山　木綿子　先生
講　　演：「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を踏まえた指導の在り方

研究開発学校の日（研究発表会）令和３年　１月２２日（金）

会　　場：烏森小学校
ね ら い：授業を会場またはオンラインで参観し、協議や講師の指導を通して、授業力の向上を図る。
研究主題：「１コマ４０分の授業づくり　午前５時間制の教育課程　単元編成と授業展開の研究・開発、新しいカリキュラムの多様性」
講　　師：文部科学省初等中等教育局教育課程課　教育課程企画室室長　板倉　寛　先生
講　　演：授業時数を見直した中で資質・能力をどのように育成していくか

教員の４０分授業における自己診断

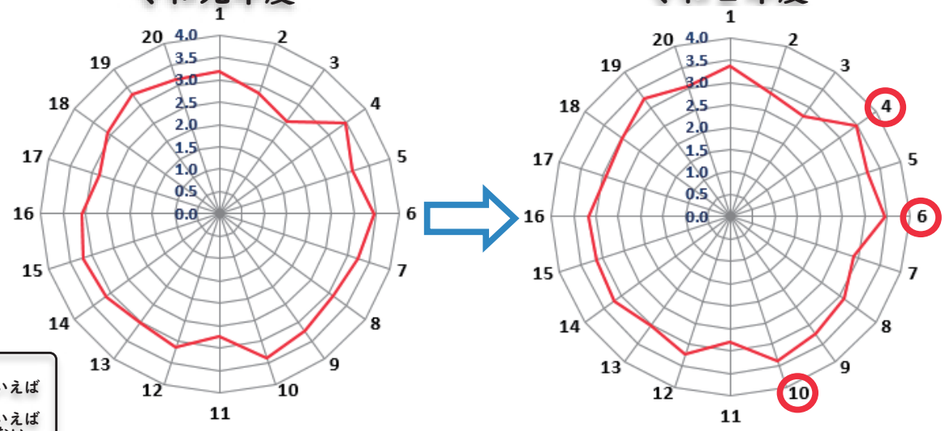
（調査目的）
４０分授業を行う上で、どのようなことを意識し、工夫しているのかを明らかにするとともに、自己診断を通して各々の教員の４０分授業に対する意識の向上を図る。（年２回実施）

自己診断項目

①授業ごとで評価する視点（観点）を決めている
②授業は指導書の予定通りに進めている
③児童に理解度について自己評価させている
④授業の開始と終わりは時刻通りに行っている
⑤児童の学力差に応じた工夫をしている
⑥授業の始めに学習の見通しをもたせている
⑦他者との意見交流・話合いの場面を設定している
⑧授業の始めにその時間の到達目標を伝えている
⑨題材に対する興味・関心をもたせている
⑩基礎的・基本的な知識・技能はおさえている
⑪応用・発展的な問題を取り入れている
⑫考える課題とそのための場面・時間を設定している
⑬課題解決に関する見方・考え方を教えている
⑭ねらいに迫るための学習活動を工夫している
⑮発問や説明・指示は絞って簡潔にしている
⑯板書（ＩＣＴ機器を含む）は大切な要点のみ表示している
⑰児童が自ら学び取る学習を取り入れている
⑱学習内容については取捨選択して教えている
⑲単元の内容により総時数を増やしたり減らしたりしている
⑳単元ごとで、教える内容や量、順番などを変更している

40 分授業における授業診断結果

令和元年度　　令和２年度



4　あてはまる
3　どちらかといえば あてはまる
2　どちらかといえば あてはまらない
1　あてはまらない

【教員が４０分授業で特に意識しているポイント　ベスト３】
1　授業の開始、終了時刻を守ること・・・・・・・・・・・（自己診断項目④）
2　基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ること・・・・（自己診断項目⑩）
3　授業の始めに学習の見通しをもたせていること・・・・（自己診断項目⑥）
＜令和元年度も令和２年度もベスト３は、同じであった。＞

※具体的な単元デザインのポイントや４０分の授業デザインのポイントは、各教科等のページをご参照ください。

令和２年度の成果と課題

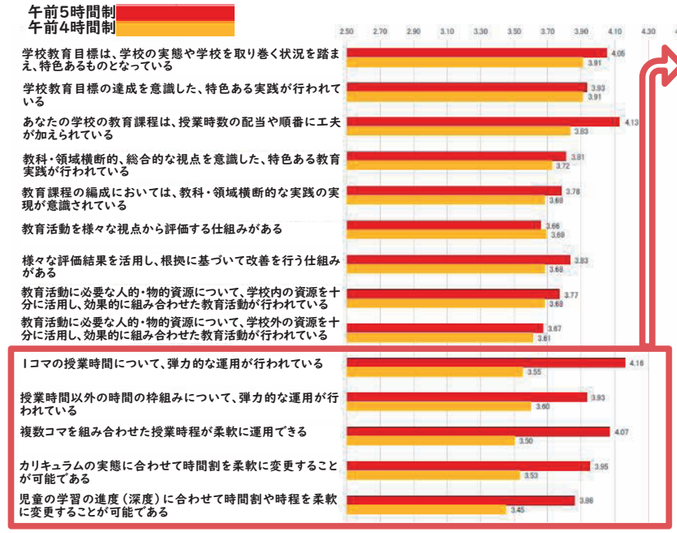
成果（○）
○学校グランドデザインの形式を統一し、各学校が作成することをとおして、「４０分授業午前５時間制」を生かした創意工夫ある教育課程の開発を進めることができた。
○各教科部会において、第３・６学年における単元デザイン・４０分の授業デザインのポイントを明確にすることにより授業改善の視点を共有することができた。
○自己診断・実態調査結果の分析をとおして、４０分授業で教員が意識するポイントや午前５時間制の特長を明らかにすることができた。

教員及び児童の実態調査

（調査目的）
研究開発学校における現在の実態や課題をより明確に把握し、教育活動や教育環境の改善に生かす。

令和元年度教員実態調査結果（抜粋）

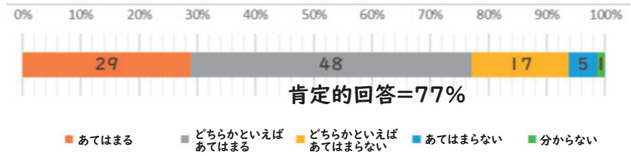
あなたの学校におけるカリキュラム・マネジメントについてうかがいます。



※令和元年度教員実態調査は、区内全小学校22校を対象として実施

令和２年度教員実態調査結果（抜粋）

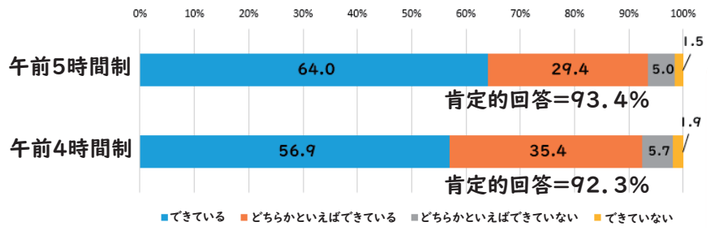
放課後は教材研究の時間等、有効活用できている。



※令和2年度教員実態調査は、研究開発学校15校のみを対象として実施

令和元年度児童実態調査結果（抜粋）

授業の始めにおくれないように気を付けて行動していますか。



※令和元年度児童実態調査は、研究開発学校14校のみを対象として実施

【授業時間等の弾力化】
・１コマの授業時間を、２０分間の帯時間と４０分授業とを組み合わせるなど弾力的な運用ができ、体験活動等の長い時間を要する活動に複数のコマを組み合わせるなど、継続性のある授業を行うことができる。

この他にも、午前5時間制実施校の教員は、下のように「カリキュラム・マネジメント」への参画意識や、学習内容の焦点化等の意識が高いことが、調査結果からわかりました。

【参画意識の向上】
・授業時程の柔軟な運用や放課後の有効活用、学年会や会議、研修の時間の確保等、裁量の時間が増えたことによる教員のカリキュラム・マネジメントへの参画意識が向上した。

【学習内容の焦点化】
・ICT 機器の活用をはじめ、１単位時間の学習過程（導入・展開・まとめ）における手だてを工夫することで、時間短縮や学習内容等の焦点化を図りながら、ねらいを達成する授業づくりが行われている。

【生み出した時間の活用】
・児童の学びの質の向上を図るために、弾力的な時間割設定に対応した指導方法や教材について、教員同士で話合いながら授業をつくり出す時間として活用している。
・児童が授業で分からなかったところや苦手な学習について教員が個別指導したり、児童が学校生活について教員等に相談したりする時間として活用している。

【児童の主体性の育成と学習規律の確立】
・児童自らが授業の始めに遅れないように気を付けて行動する等、「４０分授業午前５時間制」は学習規律の確立につながっている。

課題（●）
●各学校は、「４０分授業午前５時間制」によって生み出した時間を、さらに学校独自の教育課程に生かすとともに、学力調査・意識調査等に基づいた評価・検証を行う。
●第３・６学年以外の単元デザイン・４０分の授業デザインのポイント、年間指導計画を作成する。
●学習効果をさらに高めるため、家庭学習との関連やＩＣＴ機器の活用について検討する。

【参考】

目黒区立小学校の４０分授業午前５時間制

例

学びの午前

活動の午後

●生活時程

朝会・朝読書	8:10～8:15
	8:15～8:25
朝の会	8:25～8:35
1校時	8:35～9:15
休み	9:15～9:20
2校時	9:20～10:00
休み	10:00～10:05
3校時	10:05～10:45
中休み	10:45～11:05
4校時	11:05～11:45
休み	11:45～11:50
5校時	11:50～12:30
給　食	12:30～13:15
掃除昼休み	
裁量等	
6校時	
帰りの会・下校	15:00～

●生活習慣の確立

９６%の児童が給食の時間が少し遅くなることを考慮し、朝ご飯をしっかり食べてきています。このように、

４０分授業午前５時間制は、早寝・早起き・朝ごはんを習慣化させることができます。

●授

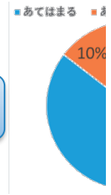
児童
学習に
時間が
確実

集中力

●継続的な学習や知識・技能の習熟・定着を図るための短時間学習の実施

国語科や算数科、外国語科の授業では、短時間学習を実施しています。単元や題材といった時間や内容のまとまりの中に適切に位置付け、授業のねらいを明確にすることで

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができます。



Q　カリキュラムの実施に合わせて時間割を柔軟に変更することが可能ですか。

A

裁量等（生み出した時間

学び

生み

児童

●個別指導の充実

放課後の時間を活用して、授業で分からなかったところや苦手な学習を先生に個別に教えてもらったり、学校生活について先生と話をしたりすることができます。

●自由時間の拡大

放課後の時間を活用して、友達とランドセルひろば等で、たくさん体を動かして遊ぶことができます。放課後、習い事があっても遊ぶ時間があると好評です。

日を「学びの午前」「活動の午後」と位置付け、恒常性と弾力性のバランスを図りながら、緩急ある生活のリズムを生み出し、質の高い授業を年間を通して実施することができます。

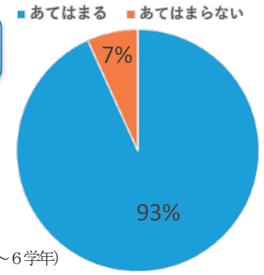
業時数と授業コマ数の確保

童は授業開始時刻を守り、４０分間集中して
ご取り組んでいます。また、午前中に５単位
分の授業を行うため、午後が授業カットになっても、

実に授業時数と授業コマ数を確保することができます。

Q　授業の始めに遅れないように気を付けて行動していますか。

A



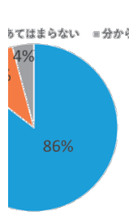
令和２年度研究開発学校１５校在籍児童対象調査（第４～６学年）

の高い午前中に行う５単位時間の授業

●「マイプラン」の実施

詳細はP9参照

マイプランや振り返りを実施したことで、１日や１週間の予定が分かり、安心して生活する様子が見られました。また、児童が自分の活動や姿容を振り返ることで次の活動に対して、主体的に取り組もうとする姿勢が多く見られるようになりました。



令和２年度研究開発学校１５校教員対象調査

間）の活用

●長時間学習を活用した主体的・対話的で深い学びの充実

４０分と２０分を合わせて６０分の長時間学習とし、体験活動を充実させるなど単元マネジメントすることができます。

思考力・判断力・表現力等の育成に効果的です。

の質を高める「長時間学習」の活用

み出した放課後のゆとり時間の活用

教員

●研修、学年会の充実

放課後の時間を活用して、児童の学びの質の向上を図るために、弾力的な時間割設定に対応した指導方法や教材について、教員同士で話し合いながら、年間指導計画や単元デザイン、４０分の授業デザイン（児童の主体的な学習の姿勢を育む授業展開等）について研究等を行うことができ、

授業力の向上につながっています。

生み出した放課後の時間を活用した研修の様子
令和２年１１月１３日　研究開発学校の日（所属校で研修）
詳細は、P48参照